

北海道大学小児科  
平成17(2005)年度  
業績集

2006年10月発行

北海道大学小児科平成 17(2005)年度業績集 目次

2005 年版北大小児科年報の発刊にあたって..... 3

免疫グループ ..... 4  
 血液グループ ..... 10  
 神経グループ ..... 14  
 腎臓グループ ..... 21  
 内分泌・糖尿病グループ..... 23  
 循環器グループ ..... 27  
 新生児グループ ..... 31  
 感染グループ ..... 34  
 遺伝染色体グループ..... 36  
 代謝消化器グループ..... 38

関連病院

市立札幌病院 ..... 41  
 札幌厚生病院 ..... 44  
 KKR 札幌医療センター ..... 48  
 天使病院 ..... 52  
 北海道社会保険病院..... 56  
 手稲溪仁会病院 ..... 59  
 国立病院機構 北海道がんセンター..... 62  
 JR 札幌鉄道病院..... 65  
 北海道医療大学病院..... 69  
 愛育病院 ..... 72  
 札幌北楡病院 ..... 75  
 江別市立病院 ..... 78  
 市立美唄病院 ..... 81  
 美唄労災病院 ..... 84  
 市立三笠総合病院 ..... 87  
 栗山赤十字病院 ..... 90  
 市立小樽病院 ..... 93  
 倶知安厚生病院 ..... 96  
 岩内協会病院 ..... 99

市立千歳市民病院 .....	102
恵み野病院 .....	105
王子総合病院 .....	108
日鋼記念病院 .....	111
伊達赤十字病院 .....	114
市立旭川病院 .....	117
北見赤十字病院 .....	120
美幌町立国保病院 .....	124
函館中央病院 .....	127
函館五稜郭病院 .....	130
帯広協会病院 .....	133
帯広厚生病院 .....	136
池田町立病院 .....	139
釧路赤十字病院 .....	142
釧路労災病院 .....	145
町立中標津病院 .....	148
市立根室病院 .....	151
楡の会こどもクリニック .....	154
白老町立国保病院 .....	157
新日鐵室蘭総合病院 .....	160

## 2005 年版北大小児科年報の発刊にあたって

2005 年度版の北大小児科年報をお届けいたします。

私が教授になって丸二年経ちましたが、新研修制度のあおりが津波のように押し寄せてきて、大学内外の人材不足の対策に頭を痛めている毎日です。

そのような状況の下、今年の6月 24-25 日に教授になって初めて学会というものを主催させていただきました。日本発達障害学会・第 41 回研究大会という学会で私の専門とは異なる分野のものでしたが、皆様方のご援助、ご協力のお陰で何とか無事終了することができました。改めて御礼申し上げます。

毎年、この様な活動の報告を行っていますが今年で三回目となりました。大学ではどのような体制で、どのような診療・研究・活動が行われているか？それぞれの関連病院ではどのような診療、臨床研究・活動が行われているか？自分を省みる機会や発奮材料に、お互いの理解を深めるきっかけになればと思っております。

今年度から関連病院で診療/研修をしている卒後 10 年までの医会員を対象にした優秀論文賞を設定しました。若い人の励みになればと、今後、この年報にも受賞者やその内容などを載せていきたいと考えております。少しずつでも、この年報の内容が充実していくように努力するつもりですので、宜しく御願いたします。ご覧になって、ご批判、ご意見など有りましたら、どうぞご遠慮なくご連絡下さい。

北海道大学大学院医学研究科・  
病態制御学専攻・生殖発達医学講座・小児科学分野教授

有 賀 正

## 免疫グループ

### 所属メンバー

- ・有賀 正 (教授、昭和53年卒)
- ・川村信明 (助教授、昭和54年卒)
- ・波多野典一 (医員、平成4年卒)
- ・戸板成昭 (大学院生、平成8年卒)

外来患者数 (免疫・アレルギー) 785 人/年

外来患者疾患別割合

- 1) アレルギー性疾患 : 13.0 % (Bronchial Asthma, Atopic dermatitis, Food allergy, Drug allergy, FDEIA, )
- 2) リウマチ性疾患 : 58.5 % (JIA, SLE, DM, SS, MCTD, Neonatal Lupus, Periodic Fever, PN, IBD,)
- 3) 免疫不全症 : 28.5 % (XSCID, ADA deficiency, HIMS, WAS, CGD, XLA, CVID, DiGeorge syndrome, HIES,)

入院患者数 18 人/年

疾患別入院数

- 若年性特発性関節炎 : 3名 (マクロファージ活性化症候群合併 1名)
- 若年性皮膚筋炎 : 2名 (間質性肺炎合併)
- 全身性エリテマトーデス : 1名 (CNS-Lupus)
- Castleman病 : 1名 (外科的摘除)
- 慢性肉芽腫症 : 4名 (肝膿瘍2名 (うち外科的摘除1名)、真菌性硬膜炎1名)
- ADA欠損症 : 2名 (造血幹細胞を標的とした遺伝子治療)
- X連鎖重症複合免疫不全症 : 1名 (臍帯血幹細胞移植)
- 重症複合免疫不全症 : 1名 (臍帯血幹細胞移植)
- 高 IgM 症候群 : 1名
- T 細胞機能不全症 : 1名
- Common Variable Immunodeficiency : 1名

### 研究内容

- ・ ADA 欠損症に対する血液幹細胞遺伝子治療臨床研究
- ・ 原発性免疫不全症の病態解析、遺伝子解析、治療
- ・ 自己免疫疾患の病態解析、遺伝子解析、治療
- ・ アレルギー性疾患の病態解析、治療
- ・ 先天性の歯牙異常の遺伝子解析
- ・ 自己炎症性症候群の遺伝子解析

**競合的外部資金**

- ・厚生労働省科学研究費：原発性免疫不全症候群に関する調査研究（有賀 正；分担）
- ・厚生労働省科学研究費：小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究（有賀 正；分担）
- ・厚生労働省科学研究費：小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究（有賀 正；分担）
- ・厚生労働省科学研究費：質問票によるアトピー性皮膚炎の有症率調査法の確立に関する研究（有賀 正；分担）
- ・科学研究費補助金（基盤研究 B）：CXCR4 遺伝子導入による血液幹細胞移植の基礎的研究（有賀 正；分担）
- ・科学研究費補助金（基盤研究 C）：リンパ球活性化機構における FOXP3 遺伝子の機能に関する研究（川村信明；代表）
- ・秋山記念生命科学研究所助成金（川村信明）

**発表論文**

1. Fujioka H, Ariga T, Horiuchi K, Otsu M, Igawa H, Kawashima K, Sugihara T and Sakiyama Y: Molecular analysis of nonsyndromic preaxial polydactyly; preaxial polydactyly type-IV and preaxial polydactyly type-I. Clin Genet 67: 429-433, 2005
2. Fujioka H and Ariga T: Response to Biesecker and Johnston. Clin Genet 68: 285, 2005
3. Fujioka H, Ariga T, Yoda M, Ohsaki M, Horiuchi K, Otsu M, Sugihara T and Sakiyama Y: A Case of C3 Deficiency With a Novel Homozygous Two-base Deletion in the *C3* Gene. Am J Med Genet 138A: 399-400, 2005
4. Horiuchi K, Ariga T, Fujioka H, Kawashima K, Yamamoto Y, Ikawa H and Sakiyama Y: Mutational Analysis of the *TCOF1* Gene in 11 Japanese Patients with Treacher Collins Syndrome. Am J Med Genet 134A: 363-367, 2005
5. Sato T, Kobayashi R, Nakajima M, Iguchi A and Ariga T: Significance of eosinophilia after stem cell transplantation as a possible prognostic marker of favorable outcome. Bone Marrow Transplant 36: 985-991, 2005
6. 有賀 正：原発性免疫不全症. 遺伝子診療学、遺伝子治療－現状と展望－各論、血液疾患に対する遺伝子治療 日本臨床（増刊号 12）63: 641-645, 2005
7. 有賀 正：遺伝子治療－現状の問題点と自験例の ADA 欠損症に対する治療を中心に－. 日本小児科医会会報 30: 35-40, 2005
8. 有賀 正：遺伝子治療の現況と展望. 腎と透析 59: 480-484, 2005
9. 有賀 正：原発性免疫不全症に対する新しい治療の流れ－血液幹細胞移植と遺伝子治療の現状と問題点－. 先端医療シリーズ 34 小児科の新しい流れ 柳澤正義、衛藤義勝、五十嵐隆 編集、先端医療技術研究所、東京都: 349-353, 2005
10. 戸板成昭、有賀 正：IgG, IgG サブクラス、IgA, 分泌型 IgA, IgM, IgD. 小児内科 37: 284-288, 2005

11. レザ・シアリ: 小児シェーグレン症候群における抗 $\alpha$ -フォドリン自己抗体が認識するエピトープ解析. 北海道医学雑誌 80(5): 441-447, 2005
12. 波多野典一、戸板成昭、小林良二、小林一郎、川村信明、岡野素彦、小林邦彦、有賀 正: 骨髄非破壊的臍帯血移植を施行した X-SCID の免疫機能再建過程. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 原発性免疫不全症候群に関する調査研究 平成 16 年度総括・分担研究報告書: 43-46, 2005
13. 大津 真、前山義博、中島 督、貴田みゆき、戸板成昭、波多野典一、川村信明、岡野素彦、立澤 幸、小野寺雅史、Candotti F、Hershfield M、崎山幸雄、有賀正: アデノシンデアミナーゼ (ADA) 欠損症における血液幹細胞を標的とした遺伝子治療臨床研究. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 原発性免疫不全症候群に関する調査研究 平成 16 年度総括・分担研究報告書: 53-56, 2005
14. Ariga T: Gene therapy for primary immunodeficiency diseases; recent progress and misgivings. *Curr Pharm Dsign* 12: 557-563, 2006
15. Kobayashi I, Kawamura N, Okano M, Sageshima S, Nakayama T, Ohyu J and Kobayashi K: Thrombocytopenia in juvenile dermatomyositis. *Scand J Rheumatol* 35: 79-80, 2006
16. Okajima S, Cho K, Chiba H, Azuma H, Mochizuki T, Yamaguchi M, Sato S, Ikeda H, Yamada H, Minakami H, Ariga T and Kobayashi K: Two sibling cases of hydrops fetalis due to alloimmune anti-CD36 (Nak<sup>a</sup>) antibody. *Thrombosis and Hemostasis* 95: 267-271, 2006
17. Dogu F, Ariga, T, Ikinciogullari A, Bozdogan G, Aytekin C, Metin A and Babacan E: A case of Wilkott-Aldrich syndrome with de novo mutation at exon 4. *Turkish J Pediatr* 48: 66-68, 2006
18. Cho K, Nakata K, Ariga T, Okajima S, Matsuda T, Ueda K, Furuta I, Kobayashi K and Minakami H: Successful treatment of congenital pulmonary alveolar proteinosis with intravenous immunoglobulin G administration. *Respirology (Suppl 1)*: S74-77, 2006
19. Ma X, Endo R, Ishiguro N, Ebihara T, Ishiko H, Ariga T and Kikuta H: Detection of Human Bocavirus in Japanese Children with Lower Respiratory Tract Infections. *J Clin Microbiol* 41: 132-134, 2006
20. Shiari R, Kobayashi I, Toita N, Hatano N, Kawamura N, Okano M, Hayashi Y, Kobayashi K and Ariga T: Epitope mapping of anti- $\alpha$ -fodrin autoantibody in juvenile Sjögren's syndrome; difference in major epitopes between primary and secondary cases. *J Rheumatology (in press)*, 2006
21. 依田弥奈子、吉田佳代、大柳尚彦、大崎雅也、吉村英敦、波多野典一、有賀 正、崎山幸雄: McLeod 症候群を伴った X 連鎖慢性肉芽腫症の 1 例. 日本小児科学会雑誌 110: 38-41, 2006
22. 戸板成昭: 全身型若年性特発性関節炎とその類似疾患に関する臨床的研究. 北海道医学雑誌(in press), 2006

## 学会発表

## 全国学会

1. Otsu M, Nakajima S, Kida M, Maeyama Y, Toita N, Hatano N, Kawamura N, Okano M, Kobayashi R, Tatsuzawa O, Onodera M, Candotti F, Hershfield MS, Sakiyama Y, Ariga T: Engraftment of gene-corrected repopulating cells in ADA-SCID patients achieved by stem cell gene therapy without myeloablative pre-conditioning. The 8<sup>th</sup> American Society of Gene Therapy, St. Louis, MO, USA, 2005
2. Hatano N, Otsu M, Sakiyama Y, Ariga T: Gene therapy for adenosine deaminase deficiency targeting autologous bone marrow CD34+ cells. 日本遺伝子治療学会、シンポジウム、東京都、2005
3. Ariga T, Otsu M, Hatano N, Sakiyama Y: Clinical status of two patients with ADA-SCID who received hematopoietic stem cell gene therapy without myeloablative conditioning. 日本遺伝子治療学会 特別シンポジウム、東京都、2005
4. 貴田みゆき、中島 督、松井英人、山内昌樹、Nelson DL、崎山幸雄、有賀 正: RNA editing により一部に WASP 陽性リンパ球が確認された WAS の一症例. 第 50 回日本人類遺伝学会、倉敷市、2005
5. 戸板成昭、波多野典一、小林一郎、川村信明、岡野素彦、小林邦彦、有賀 正: 若年性特発性関節炎 (JIA) における血清 MMP (matrix metalloproteinase)-3 の測定意義. 第 108 回日本小児科学会学術集会、東京都、2005
6. 小林一郎、Shiari R、戸板成昭、波多野典一、川村信明、岡野素彦、林 良夫、小林邦彦、有賀 正: 小児シェーグレン症候群における抗  $\alpha$ -fodrin 抗体のエピトープ解析: 一次性と二次性の比較と epitope spreading. 第 14 回日本シェーグレン症候群研究会、千葉市、2005
7. 中嶋雅秀、佐藤智信、戸板成昭、波多野典一、井口晶裕、小林良二、川村信明、岡野素彦、有賀 正: 骨髄非破壊的前処置により臍帯血移植を施行した X 連鎖重症複合免疫不全症候群の 2 例. 第 108 回日本小児科学会学術集会、東京都、2005
8. 戸板成昭、波多野典一、川村信明、有賀 正: *Acremonium* sp.による真菌性硬膜炎を合併した慢性肉芽腫症の 1 例. 第 37 回日本小児感染症学会、津市、2005
9. 波多野典一、戸板成昭、中舘尚也、川村信明、有賀 正: 特異な Splice 異常を認めた慢性肉芽腫症の一例. 第 13 回食細胞機能異常症研究会、東京都、2005
10. 小林一郎、シアリ・レザ、戸板成昭、波多野典一、川村信明、岡野素彦、林 良夫、小林邦彦、有賀 正: 小児シェーグレン症候群における抗  $\alpha$ -フォドリン抗体のエピトープ解析. 第 55 回日本アレルギー学会秋季学術大会、盛岡市、2005
11. 戸板成昭、波多野典一、川村信明、有賀 正: 小児 Castleman 病における病態解析. 第 109 回日本小児科学会、金沢市、2006

## 地方学会

1. 戸板成昭、波多野典一、小林一郎、川村信明、岡野素彦、小林邦彦、有賀 正: 若年性特発性関節炎 (JIA) における血清 MMP-3 の測定意義. 第 17 回北海道小児リウマチ性

## 疾患研究会、札幌市、2005

2. 古堅祐行、佐藤智信、戸板成昭、金田 真、波多野典一、井口晶裕、小林良二、川村信明、有賀 正: 骨髓非破壊適前処置により臍帯血移植を施行した重症複合免疫不全症症例の検討. 第 57 回北日本小児科学会、福島市、2005
3. 藤原伸一、戸板成昭、波多野典一、川村信明、有賀 正: 小児 Castleman 病の一例. 第 57 回北日本小児科学会、福島市、2005
4. 松波由貴子、戸板成昭、波多野典一、川村信明、有賀 正、森田啓介、奥野章裕: 全身型若年性特発性関節炎 (s-JIA) に合併したマクロファージ活性化症候群 (MAS) の 1 例. 第 57 回北日本小児科学会、福島市、2005
5. 戸板成昭、波多野典一、川村信明、有賀 正: 家族性地中海熱の兄弟例. 第 18 回北海道小児リウマチ性疾患研究会、札幌市、2006

## 講演・シンポジウムなど

1. 有賀 正: 日常診療で診る免疫不全症について. 函館小児科医会特別講演 函館市 2005.5.25
2. 有賀 正: 遺伝子治療. 日本小児科医会セミナー教育講演 札幌市 2005.6.11-12
3. 有賀 正: 原発性免疫不全症に対する遺伝子治療の現状と問題点; 自験例の ADA 欠損症に対する治療を中心に. 第 8 回オホーツク臨床免疫フォーラム特別講演 北見市 2005.7.1
4. 有賀 正: 日常臨床で診る免疫不全症. 第 9 回山形小児難病研究会特別講演 山形市 2005.8.26
5. 有賀 正: 遺伝子治療の現状と将来. 第 85 回北海道医学大会総会各科トピックス 札幌市 2005.9.24
6. 川村信明: 小児の免疫不全症 - その基礎と臨床 -. 第 1 回北海道小児最新医療セミナー 札幌市 2005.8.20
7. Ariga T: Gene Therapy 20 years later. Modulator and speaker. 第 109 回日本小児科学会 International symposium 金沢市 2006

## 社会貢献

- ・北海道特定疾患対策協議会審査専門委員会委員 (有賀 正)
- ・北海道小児慢性特定疾患対策協議会委員 (有賀 正)
- ・札幌市小児慢性特定疾患対策協議会委員 (有賀 正)
- ・函館市小児慢性特定疾患対策協議会委員 (有賀 正)
- ・北海道臍帯血バンク理事 (有賀 正)
- ・小児医学研究振興財団評議員 (有賀 正)
- ・日本小児保健協会評議員 (有賀 正)
- ・北海道 (各市町村) 予防接種健康被害調査委員会委員 (川村信明)
- ・日本小児科学会代議員・欧文誌編集委員会委員 (有賀 正)

- 
- ・北日本小児科学会幹事（有賀 正）
  - ・日本小児感染症学会理事・感染症情報委員会委員・予防接種関連委員会委員（有賀 正）
  - ・日本小児リウマチ学会運営委員（有賀 正）
  - ・北海道医学会評議員（有賀 正）
  - ・北海道小児リウマチ性疾患研究会会長（有賀 正）
  - ・北海道小児保健研究会幹事（有賀 正）
  - ・臨床小児医学編集委員（有賀 正）
  - ・北海道出生前診断研究会監査（有賀 正）
  - ・日本小児科学会代議員・北海道地区資格認定委員会委員（川村信明）
  - ・北日本小児科学会幹事（川村信明）
  - ・北海道医学会評議員（川村信明）
  - ・北海道小児リウマチ性疾患研究会幹事（川村信明）
  - ・北海道小児保健研究会幹事（川村信明）

## 血液グループ

## 所属メンバー

- ・小林良二（講師、昭和 59 年卒）
- ・井口晶裕（医員、平成 2 年卒）
- ・金田 眞（医員、平成 5 年卒）
- ・佐藤智信（大学院生、平成 9 年卒）

外来患者数 1,164 人/年

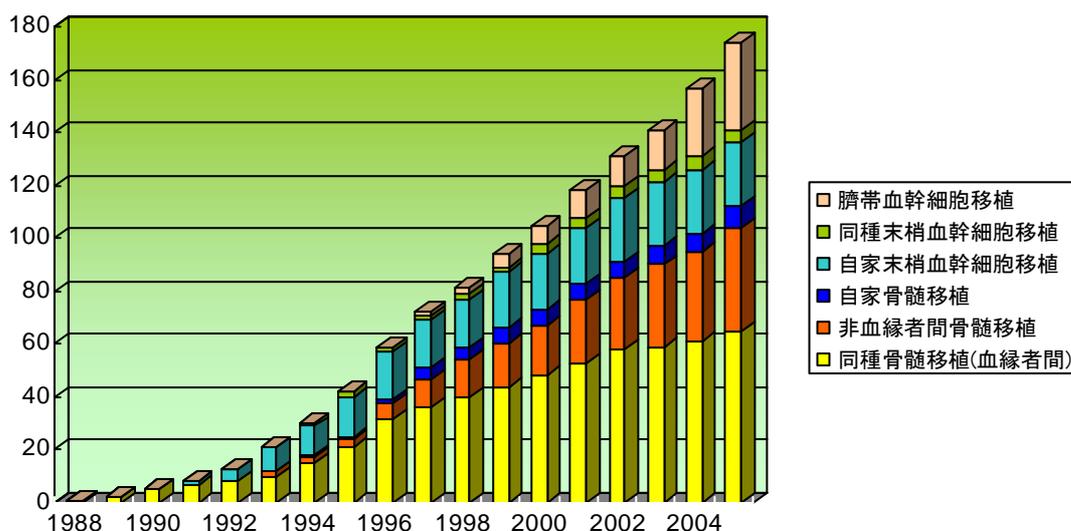
入院患者数 70 人/年

## その他の特色ある診療内容

## 初発患者の疾患

	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
ALL	6	9	10	9	7	10	9
AML	3	0	2	5	4	4	6
NHL	2	1	2	2	1	0	1
A.A.	2	3	3	3	0	3	2
Neuroblastoma	0	4	1	4	5	5	5
Wilms tumor	2	2	1	2	1	3	1
Rhabdomyosarcoma	1	0	1	1	1	0	0
Hepatoblastoma	1	1	1	0	0	1	0
PNET	0	0	3	0	0	0	0
LCH	2	0	1	0	0	1	0
Donor	4	6	5	6	1	2	3

移植



	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
Allo BMT(unrelated)	2	3	5	3	4	3	5
Allo BMT(related)	4	4	5	5	1	2	4
Allo PBSCT	0	2	0	1	0	0	0
CBSCT	3	2	3	1	4	11	7
Auto BMT	1	0	0	0	1	0	1
Auto PBSCT	3	0	0	3	0	0	0

研究内容

臨床研究・造血幹細胞移植の合併症と予後

- ・白血病における tumor lysis と予後の関係
- ・小児腫瘍性疾患における抗生剤・抗真菌剤の有効性の検討など

発表論文

1. Okada T, Sasaki F, Kamiyama T, Nakagawa T, Nakanishi K, Kobayashi R, Itoh T, Ota S and Todo S: Focal nodular hyperplasia of the liver: usefulness of superparamagnetic iron oxide-enhanced magnetic resonance imaging. J Pediatr Surg 40: E21-25, 2005
2. Kaito E, Terae S, Kobayashi R, Kudo K, Tha KK and Miyasaka K: The role of tumor lysis in reversible posterior leukoencephalopathy syndrome. Pediatr Radiol 35: 722-727, 2005
3. Tsurusawa M, Manabe A, Hayashi Y, Akiyama Y, Kigasawa H, Inada H, Noguchi Y, Sawai N, Kobayashi R, Nagatoshi Y, Kawakami K, Kojima S and Nakahata T: Therapy-related myelodysplastic syndrome in childhood: a retrospective study of 36

- patients in Japan. *Leukemia Research* 29: 625-632, 2005
4. Sato T, Kobayashi R, Iguchi A, Nakajima M, Koizumi S, Furukawa H, Todoh S and Kobayashi K: Acute promyelocytic leukemia after living donor partial orthotopic liver transplantation in two Japanese girls. *Leukemia & Lymphoma* 46: 1057-1060, 2005
  5. 中嶋雅秀: 小児急性リンパ性白血病の予後予測因子としての寛解導入療法初期の尿中リン排泄量の検討. *北海道医誌* 80: 419-425, 2005
  6. 佐藤智信、中嶋雅秀、井口晶裕、中川温子、小林良二: 急性骨髄性白血病(FAB:M5a)における精巣再発の 1 例. *日本小児血液学会雑誌* 19: 220-223, 2005
  7. Sato T, Kobayashi R, Iguchi A, Nakajima M and Ariga T: The significance of eosinophilia after stem cell transplantation as a possible prognostic marker for favorable outcome. *Bone Marrow Transplantation* 36: 985-991, 2005
  8. Okada T, Sasaki F, Minagawa N, Naito S, Kobayashi R, Kubota M and Todo S: Postoperative portal and splenic vein thrombosis in children: Identification of risk factors. *Pediatr Surg Int* 21: 918-921, 2005
  9. Mori T, Takimoto T, Katano N, Kikuchi A, Tabuchi K, Kobayashi R, Ayukawa H, Kumagai M, Horibe K and Tsurusawa M: Recurrent childhood anaplastic large cell lymphoma: a retrospective analysis of registered cases in Japan. *Br J Hematol* 132: 594-597, 2006
  10. Kobayashi R, Tawa A, Hanada R, Horibe K, Tsuchida M and Tsukimoto I: Extramedullary infiltration at diagnosis and prognosis in children with acute myelogenous leukemia. *Pediatric Blood & Cancer*, online in advance of print, 2006
  11. 井口晶裕、佐藤智信、金田 真、小林良二: 寛解導入時に all trans-retinoic acid による血球貪食症候群を発症した急性前骨髄性白血病(M3)の 2 例. *日本小児血液学会雑誌* 20: 39-44, 2006
  12. 佐藤智信、金田 真、井口晶裕、小林良二: 臍帯血移植により寛解を維持している RAEB-AML-M6 症候群の乳児例. *日本小児血液学会雑誌* 20: 51-54, 2006

## 学会発表

### 全国学会

1. 小林良二他: 移植前の免疫抑制療法が後天性再生不良性貧血に対する HLA 一致同胞間移植の治療成績に与える影響. 第 47 回日本臨床血液学会ワークショップ 2005.9.18
2. 井口晶裕他: 寛解導入時に all trans retinoic acid による血球貪食症候群を発症した急性前骨髄性白血病(M3)の 2 例. 第 47 回日本小児血液学会 2005.11.27
3. 小林良二他: 臍帯血移植を施行した小児 33 例の検討. 第 28 回造血細胞移植学会ワークショップ 2006.2.24

### 地方学会

1. 佐藤智信他: 慢性骨髄線維症の疑われた 1 例. 第 11 回北海道小児血液セミナー

2005.1.28

2. 小林良二他: 13.2Gy/11f の全身照射にて前処置をおこなった造血幹細胞移植症例の検討. 第 12 回北海道小児血液セミナー 2005.9.9
3. 小林良二: 小児急性リンパ性白血病について. 第 47 回日本臨床血液学会北海道地方会シンポジウム 2005.10.1
4. 佐藤智信他: 原発性免疫不全症に対する造血幹細胞移植症例の検討. 第 22 回北海道小児血液研究会 2005.11.19
5. 武田真紀子他: 発症時 DIC を合併していた神経芽細胞腫の 1 症例. 第 31 回北海道小児がん研究会 2006.3.10
6. 小関直子他: 生体肝移植を施行した肝芽腫の 1 例. 第 31 回北海道小児がん研究会 2006.3.10

## 社会貢献

小林良二

学会

日本臨床血液学会(評議員、幹事)

日本小児血液学会(評議員)

日本造血細胞移植学会(評議員)

研究会

小児再生不良性貧血治療研究会(幹事)

小児白血病研究会(JACLS)(運営委員)

小児白血病リンパ腫研究会(JPLSG)(運営委員)

委員会

日本小児血液学会再生不良性貧血委員会委員

小児白血病研究会(JACLS)リンパ腫小委員会委員長

小児白血病研究会(JACLS)AML 小委員会委員

その他

北海道臍帯血バンク判定委員会副委員長

北海道血液同好会監事

北海道造血細胞移植研究会幹事

北海道小児血液研究会幹事

北海道小児がん研究会幹事

北海道血友病研究会幹事

日本小児科学会北海道地方会幹事

## 神経グループ

### 所属メンバー

- ・ 斉藤伸治 (講師、昭和60年卒)
- ・ 白石秀明 (医員、平成4年卒)
- ・ 朝比奈直子 (大学院生、平成9年卒)
- ・ 江川 潔 (大学院生、平成10年卒、平成17年1月まで)
- ・ 香坂 忍 (非常勤、昭和52年卒)

### 入院患者数 のべ計67人

#### <疾患別>

てんかん・けいれん性疾患：30例 (症候性部分てんかん 18、WEST症候群 4、結節性硬化症 2、EIEE 1、特発性部分てんかん 1、熱性けいれん 1、脳腫瘍 1、小脳腫瘍 1、Rett症候群 1)

神経筋疾患：13例 (SMA 3、筋疾患 10)

ミトコンドリア病：3例

代謝・遺伝性疾患 (含原因不明)：10例

重症心身障害児：7例

末梢神経障害：1例

脊髄腫瘍：1例

その他：2例

#### <検査別>

長時間脳波：30例

脳磁図 (MEG)：18例

SpO<sub>2</sub>, EtCO<sub>2</sub> モニター：5例

全身麻酔下開放性筋生検：4例

レスパイト入院：3例

### 外来診療

新患患者数：133人 (約2.6人/週)

月曜・火曜神経外来 (斉藤)：1,195人

火曜神経外来 (朝比奈)：260人

水曜神経外来 (白石)：711人

水曜神経外来 (香坂)：202人

(以上、神経専門外来合計 2,368人)

神経処方外来 (月、水午前)：1,037人

(以上の総計 3,405人) (65.5人/週)

脳磁図解析件数42件 (内訳はPE 37件、SGE 3件、IGE 1件、UDE 1件)

頭蓋内脳波検査：3例

当科で評価し、てんかん外科手術に至った患者数：4例

脳波検査総数（平成17年4月から平成18年3月）：外来583件、入院75件、計658件

## 治験

レベチラセタム（抗てんかん薬：UCB Pharma）：2名

## 関連病院神経外来

（斉藤担当）：

天使病院：毎月第2火曜日午後：20人前後

札幌市児童相談所：毎月第1火曜日午後：6人前後

北見赤十字病院：毎月1回木曜～金曜：50～60人前後

市立小樽病院：隔月第3火曜日午後：10～20人前後

札幌厚生病院：隔月第3火曜日午後：5人前後＋脳波判定

帯広協会病院：3か月に1回金曜日全日：10人前後＋脳波判定

町立中標津病院：6か月に1回木金曜日2日間：10人前後＋脳波判定

（香坂担当）

市立千歳市民病院：毎月1回：10～15人前後

新日鉄室蘭総合病院：毎月1回：10～15人前後

（白石担当）

手稲溪仁会病院：毎月4回木曜：20～30人前後

日鋼記念病院：1月1回：20～30人前後

市立根室病院：3か月に1回木曜午後～金曜午前：20～30人前後

岩内協会病院：3か月に1回：1回10～20人

美唄労災病院：年2回：10～15人前後

（江川担当）

市立千歳市民病院：毎月1回金曜：10～20人前後

日鋼記念病院：1月1回：10人前後（平成17年1月から）

（朝比奈担当）

天使病院：毎月第4木曜日午後：10～20人前後

札幌市児童相談所：毎月第3木曜日午後：6人前後

## 研究室での遺伝子解析・他施設からの依頼分

Prader-Willi症候群の遺伝学的解析：19件

Angelman症候群の遺伝学的解析：17件

## 競争的外部資金・研究費

- ・科学研究費基盤研究 C：斉藤伸治「アンジェルマン症候群の遺伝学的診断法と遺伝カウンセリングの確立」平成17年度研究費：1,800千円

- ・科学研究費基盤研究 C : 須藤 章「小児ミトコンドリア病の表現型を決定する遺伝的因子について」平成 17 年度研究費 : 1,800 千円
- ・国立成育医療センター成育医療研究委託費 (先天異常の遺伝子診断システムの開発に関する研究 : 奥山班) : 斉藤伸治 (分担研究者)「プラダーウイリー症候群およびアンジェルマン症候群の系統的分子遺伝学的診断に関する研究」平成 17 年度研究経費 : 1,200 千円
- ・国立精神・神経センター精神・神経疾患研究委託費 (精神遅滞をきたす遺伝性疾患のリーサーチ・リソースの整備と分子遺伝学的研究 : 後藤班) : 斉藤伸治 (分担研究者)「精神遅滞をきたす遺伝性疾患の分子遺伝学的研究」平成 17 年度研究経費 : 1,500 千円

### 発表論文

1. Saitoh S, Wada T, Okajima M, Takano K, Sudo A and Niikawa N: Uniparental disomy and imprinting defects in Japanese patients with Angelman syndrome. *Brain Dev* 27: 389-391, 2005
2. Akahoshi K, Hattori Y, Ohashi H, Saitoh S, Fukushima Y and Wada T: A Woman with a phenotype of X-Linked  $\alpha$ -Thalassemia/ Mental Retardation syndrome (ATR-X) and dup(16p13.11 and 13.3). *Am J Med Genet* 132A: 414-418, 2005
3. Shiraishi H, Ahlfors SP, Stufflebeam SM, Takano K, Okajima M, Knake S, Hatanaka K, Kohsaka S, Saitoh S, Dale AM and Halgren E: Application of Magnetoencephalography in Epileptic Patients with Widespread Spike or Slow Wave Activity. *Epilepsia* 46: 1264-1272, 2005
4. Shiraishi H, Stufflebeam SM, Knake S, Ahlfors SP, Sudo A, Asahina N, Egawa K, Hatanaka K, Kohsaka S, Saitoh S, Grant PE, Dale AM and Halgren E: Dynamic Statistical Parametric Mapping (dSPM) for Analyzing the Magnetoencephalographic Epileptiform Activity in Patients with Epilepsy. *J Child Neurol* 20: 363-369, 2005
5. Hosoki K, Takano K, Sudo A, Tanaka S and Saitoh S: Germline mosaicism of a novel mutation of *UBE3A* in Angelman syndrome. *Am J Med Genet* 138A: 187-189, 2005
6. Oyama N, Terae S, Saitoh S, Sudoh A, Sawamura Y and Miyasaka K: Bilateral germinoma involving the basal ganglia and cerebral white matter. *Am J Neuroradiol* 26: 1166-1169, 2005
7. 斉藤伸治: 小児神経学における遺伝学的アプローチ. *小児神経学の進歩*第 34 集: 79-87, 2005
8. Wada T, Sugie H, Fukushima Y and Saitoh S: Non-skewed X-inactivation may cause mental retardation in a female carrier of X-linked  $\alpha$ -thalassemia/mental retardation syndrome (ATR-X): X-inactivation study on nine female carriers of ATR-X. *Am J Med Genet* 138A: 18-20, 2005
9. 斉藤伸治: 親由来遺伝子発現パターン異常症 (Prader-Willi/Angelman 症候群). *医学のあゆみ* 215: 124-127, 2005

10. 斉藤伸治: 主要な先天異常症候群のメディカルマネージメント: Prader-Willi 症候群. 小児内科 37: 1369-1373, 2005
11. 斉藤伸治: DNA メチル化解析. 日本臨床 63 巻 増刊号 12 遺伝子診療学 — 遺伝子診断の進歩と遺伝子治療の展望 —: 176-180, 2005
12. Ichikawa M, Okajima M, Wada T, Tonoki H and Saitoh S: Non-chromosome marker chromosome in a Prader-Willi syndrome patient with uniparental disomy. *Pediatr Int* 48: 97-99, 2006
13. 橋本 勲、柿木隆介、白石秀明、中里信和、長峯 隆、渡辺裕貴: 臨床脳磁図検査解析指針. *臨床神経生理学* 33(2): 69-86, 2005
14. 白石秀明, Stufflebeam SM, Knake S, Ahlfors SP, 江川 潔、朝比奈直子、畑中啓作、香坂 忍、斉藤伸治、Dale AM, Halgren E: Dynamic Statistical Parametric Mapping (dSPM)を用いたてんかん脳磁図解析. *日本生体磁気学会誌* 18(1): 16-17, 2005
15. Knake S, Halgren E, Shiraishi H, Hara K, Hamer HM, Grant PE, Carr VA, Foxe D, Camposano S, Busa E, Witzel T, Hamalainen MS, Ahlfors SP, Bromfield EB, Black PM, Bourgeois BF, Cole AJ, Cosgrove GR, Dworetzky BA, Madsen JR, Larsson PG, Schomer DL, Thiele EA, Dale AM, Rosen BR and Stufflebeam SM: The value of multichannel MEG and EEG in the presurgical evaluation of 70 epilepsy patients. *Epilepsy Res.* 2006 Mar 1
16. Knake S, Triantafyllou C, Wald LL, Wiggins G, Kirk GP, Larsson PG, Stufflebeam SM, Foley MT, Shiraishi H, Dale AM, Halgren E and Grant PE: 3T phased array MRI improves the presurgical evaluation in focal epilepsies: a prospective study. *Neurology* 65(7): 1026-31, 2005
17. Shiraishi H, Ahlfors SP, Takano K, Okajima M, Asahina N, Sudo A, Kohsaka S, Knake S, Stufflebeam SM, Halgren E, Hatanaka K and Saitoh S: Dynamic Statistical Parametric Mapping (dSPM) for localizing the irritative Zone in Analyzing the Magnetoencephalographic Epileptiform in Patients with Epilepsy. *Epilepsia* 46(S2): 18, 2005
18. Asahina N, Okamoto T, Sudo A, Kanazawa N, Tsujino S and Saitoh S: An infantile-juvenile form of Alexander disease caused by a R79H mutation in GFAP. *Brain Dev* 28: 131-133, 2006
19. Wada T, Sakakibara M, Fukushima Y and Saitoh S: A novel splicing mutation of the ATRX gene in ATR-X syndrome. *Brain Dev* 28: 322-325, 2006

#### 学会発表

1. 斉藤伸治、江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、須藤 章: Angelman 症候群の体系的遺伝学的診断と遺伝カウンセリング. 第 108 回日本小児科学会、東京都、2005.4.22-24
2. 朝比奈直子、江川 潔、白石秀明、須藤 章、香坂 忍、斉藤伸治: 脳磁図を用いた Angelman 症候群における大脳機能障害に関する研究. 第 47 回日本小児神経学会、熊本市、2005.5.19-21

3. 和田敬仁、福嶋義光、斉藤伸治: 精神遅滞患者に対する ATRX 遺伝子変異スクリーニング法の開発. 第 47 回日本小児神経学会、熊本市、2005.5.19-21
4. 斉藤伸治、細木華奈、後閑優美、島影宏美、外木秀文: 過剰染色体を合併した Prader-Willi 症候群の遺伝学的解析. 第 50 回日本人類遺伝学会、岡山市、2005.9.21-23
5. 細木華奈、高野亨子、斉藤伸治: Angelman 症候群刷り込み変異例の分子遺伝学的解析. 第 50 回日本人類遺伝学会、岡山市、2005.9.21-23
6. 斉藤伸治、江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、須藤 章、香坂 忍、福原正和: 異なる経過を示したミオクロニー欠神てんかんの 2 例—てんかん類型・症候群分類への考察—. 第 39 回日本てんかん学会、旭川市、2005.10.13-14
7. 江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、須藤 章、香坂 忍、斉藤伸治: Angelman 症候群における体性感覚誘発磁場所見. 第 39 回日本てんかん学会、旭川市、2005.10.13-14
8. 白石秀明、江川 潔、朝比奈直子、須藤 章、香坂 忍、斉藤伸治、佐竹 明、中根進児、有働康代: 非定型良性小児部分てんかん症例の経時的変化. 第 39 回日本てんかん学会、旭川市、2005.10.13-14
9. Hosoki K, Takano K, Saitoh S: Quantitative methylation-PCR analysis in Angelman syndrome patients with an imprinting defect. 55th Annual Meeting of American Society of Human Genetics, Salt Lake City, USA, 10/26-29/2005
10. Wada T, Fukushima Y, Saitoh S: A new method for ATRX gene mutation analysis using mismatch-specific endonuclease (Surveyor<sup>TM</sup> nuclease). 55th Annual Meeting of American Society of Human Genetics, Salt Lake City, USA, 10/26-29/2005
11. Shimokawa O, Miyake N, Harada N, Sosonkina N, Ohta T, Saitoh S, Iwakoshi M, Yoshiura K, Niikawa N, Matsumoto N: Angelman syndrome in a boy with familial 15q11.2 microdeletion detected by microarray CGH. 55th Annual Meeting of American Society of Human Genetics, Salt Lake City, USA, 10/26-29/2005
12. Shiraishi H, Egawa K, Asahina N, Sudo A, Nakane S, Udo Y, Satake A, Kohsaka S, Saitoh S: Longterm sequential magnetoencephalographic analysis for patients with atypical benign partial epilepsy in childhood. 26th International epilepsy congress, Paris, France, 8/28-9/1/2005
13. 伊藤智城、土島智幸、西間木敦子、武井黄太、楠 幸博、渡辺 徹、崎山幸雄、白石秀明、寺江 聡: 中枢神経病変を合併した X 連鎖慢性肉芽腫症 (X-CGD) の成人例. 日本小児科学会北海道地方会第 264 回例会、札幌市、2005.11.27
14. 斉藤伸治、江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、香坂 忍、小林徳雄: 11 歳に発症し複雑部分発作が難治性に経過している 17 歳女兒例. 第 6 回北海道小児神経症例検討会、札幌市、2006.1.28
15. 白石秀明、江川 潔、朝比奈直子、須藤 章、香坂 忍、斉藤伸治、竹内文也、中根進児、有働康代: てんかん症例における律動波に対する脳磁図解析の試み. 第 60 回北海道てんかん懇話会、札幌市、2006.2.25
16. 伊藤智城、土島智幸、西間木敦子、武井黄太、楠 幸博、渡辺 徹、崎山幸雄、白石秀明、寺江 聡: 慢性肉芽腫症による脳血管病変に合併した症候性局在関連てんかんの一

成人例. 第 60 回北海道てんかん懇話会、札幌市、2006.2.25

17. 秋元琢真、稲本 潤、市川瑞穂、青柳勇人、松本憲則、斉藤伸治: HHV-6 感染に伴う Hemiconvulsion-Hemiplegia-Epilepsy Syndrome とされる 1 例. 第 8 回日本小児神経学会北海道地方会、札幌市、2006.3.11
18. 斉藤伸治、江川 潔、朝比奈直子、白石秀明: 乳児期に誤って Prader-Willi 症候群と診断された Angelman 症候群の 4 例. 第 8 回日本小児神経学会北海道地方会、札幌市、2006.3.11

### 講演

1. 斉藤伸治: ゲノムインプリンティングが関連する疾患: Prader-Willi 症候群と Angelman 症候群を中心に. *New Insights on Molecular Genetics of Growth Disorders*, 東京都、2005.6.25
2. 斉藤伸治: プラダー・ウイリー症候群の医学的管理. プラダー・ウイリー症候群親の会講演、札幌市、2005.11.6
3. 斉藤伸治: 小児のてんかんー診断と治療ー. 特殊学校養護教員会講演、札幌市、2006.1.13
4. 白石秀明、Stufflebeam SM, Knake S, Ahlfors SP, 江川 潔、朝比奈直子、畑中啓作、香坂 忍、斉藤伸治、Dale AM, Halgren E: Dynamic Statistical Parametric Mapping (dSPM)を用いたてんかん脳磁図解析. 第 20 回日本生体磁気学会、大阪市、2005.7.21-22
5. 白石秀明、江川 潔、朝比奈直子、香坂 忍、斉藤伸治: 熱性けいれんおよび下痢に伴うけいれんの治療. 第 8 回日本小児神経学会北海道地方会、札幌市、2006.3.11

### 刊行物

1. 斉藤伸治: ゲノム刷り込み現象とプラダー・ウイリー症候群の成因. 成長障害のマネジメント改訂版 (藤枝憲二編): 158-160, 2005.
2. 白石秀明: 小児のてんかん症候群⑩ 辺縁系てんかん. 「波」: 60-61, 2006 年 2 月号

### 社会貢献

斉藤伸治

学会委員

日本小児神経学会 (評議員、教育委員、社会活動委員)

日本人類遺伝学会 (評議員)

日本小児神経学会北海道地方会 (副会長)

その他

北海道特定疾患対策協議会 審査専門委員会委員

北海道社会福祉審議会臨時委員

拓北養護学校校医

白石秀明

学会委員

日本臨床神経生理学会（脳磁図ガイドライン作成委員会委員）

## 腎臓グループ

### 所属メンバー

- ・ 佐々木聡 (助手、昭和 62 年卒)
- ・ 中島泰志 (医員、平成 5 年卒)
- ・ 帯金克行 (医員、平成 7 年卒)

外来患者数 852 人/年

入院患者数 40 人/年

### その他の特色ある診療内容

腎臓専門外来 (道内関連病院 11 カ所)

腎生検診断 45 人/年

### 研究内容

- ・ 小児難治性腎疾患の治療法開発 (全国多施設研究)
- ・ 小児腎不全 (保存期、腹膜透析)、腎移植治療
- ・ 蛋白漏出・糸球体硬化進展機序 (腎糸球体上皮 podocyte の障害機転)に関する基礎的研究
- ・ 腹膜透析合併症 (腹膜硬化症)に関する基礎的研究

### 競合的外部資金

- ・ 厚生労働省科学研究費補助金 (佐々木, 研究協力者)
- ・ 日本学術振興会科学研究費補助金 (佐々木, 主任研究者)
- ・ 腹膜機能リサーチ助成研究 (佐々木, 主任研究者)
- ・ Baxter PD 研究基金助成研究 (中島, 主任研究者)

### 発表論文

1. Onodera S, Sasaki S, Ohshima S, Amizuka N, Li M, Udagawa N, Irie K, Nishihira J, Koyama Y, Shiraishi A, Tohyama H and Yasuda K: Transgenic mice overexpressing macrophage migration inhibitory factor (MIF) exhibit high-turnover osteoporosis. *J Bone Miner Res* 21: 876, 2006
2. 佐々木聡: [小児の治療指針] ループス腎炎. *小児科診療* 69S1: 699-702, 2006
3. 佐々木聡、帯金克行、中島泰志: [ネフローゼ症候群のすべて] 臨床治療各論、膜性腎症. 腎と透析 59: 360-364, 2006
4. Obikane K, Nakashima T, Watarai Y, Morita K, Cho K, Tonoki H, Nagata M and Sasaki S: Renal failure due to tubulointerstitial nephropathy in an infant with cranioectodermal dysplasia. *Pediatric Nephrol* 21: 574-576, 2006
5. 福澤信之、渡井至彦、森田 研、野々村克也、帯金克行、中島泰志、佐々木聡: 小児に

- における Pre-emptive renal transplantation の検討. 日本小児腎不全学会雑誌 25: 132-134, 2005
6. 渡井至彦、森田 研、下田直彦、臼木智哲、野々村克也、帯金克行、中島泰志、佐々木聡: 低体重児における SMAP 法腹膜透析導入. 日本小児腎不全学会雑誌 25: 117-119, 2005
  7. Echigoya MH, Obikane K, Nakashima T and Sasaki S: Glomerular localization of erythropoietin receptor mRNA and protein in neonatal and mature mouse kidney. Nephron Exp Nephrol 100: e21-e29, 2005

## 学会発表

### 全国学会

1. 佐々木聡、帯金克行、中島泰志: 小児ネフローゼ症候群におけるシクロスポリンの薬物動態の安定性. 第 48 回日本腎臓学会学術総会、横浜市、2005.6.23
2. 中島泰志、佐々木聡、帯金克行、西平 順、有賀 正: Macrophage migration inhibitory factor (MIF)は、腹膜硬化症の進行に積極的に関与する. 第 40 回日本小児腎臓病学会、仙台市、2005.5.12

### 講演・シンポジウムなど

1. 佐々木聡: 小児腎疾患の診断と治療. 第 11 回札幌セミナー (札幌臨床検査技師会主催)、小樽市、2005.11.26

## 内分泌・糖尿病グループ

### 所属メンバー

- ・ 田島敏広（助手、昭和61年卒）
- ・ 椿 淳子（医員、平成4年卒）
- ・ 石津 桂（大学院生、平成10年卒）

外来患者数 1,476人/年

入院患者数 36人/年

### その他の特色ある診療内容

成人成長ホルモン欠損症の治験

SFD低身長へのGH治療の治験

KP1102の特発性低身長への治験

先天性甲状腺機能低下症，先天性副腎皮質機能低下スクリーニング患者の精査病院  
ターナー女性に対する治療

### 研究内容

- ・ 先天性副腎疾患の成因解明
- ・ 成長障害疾患の成因解明と治療
- ・ 尿細管疾患の成因解明と治療

### 競合的外部資金

- ・ 平成17年度科学研究費補助金基盤研究(C) 「副腎皮膜移植による皮質再生－新しい治療法の開発－」 2,200千円 研究代表者 2005
- ・ 厚生労働省科学研究費補助金 副腎ホルモン産生異常に関する調査研究班 分担研究者 500千円
- ・ ノボノルディスク成長科学賞 先天性下垂体機能低下（複合型下垂体前葉ホルモン欠損症）の成因解明 1,000千円

### 発表論文

1. Tajima T, Satoh K, Okuhara K, Tsubaki J and Fujieda K: Hypomagnesemia in a patient with Barth syndrome. J Pediatr Endocrinol Metab 18: 523, 2005
2. Watanabe T and Tajima T: Renal cysts and nephrocalcinosis in a patient with Bartter syndrome type III. Pediatr Nephrol 20: 676-678, 2005
3. Fujieda K and Tajima T: Molecular Basis of Adrenal Insufficiency. Pediatr Res 57(5 Pt 2): 62R-69R, 2005
4. Nakamura A, Shimizu C, Nagai S, Taniguchi S, Umetsu M, Atsumi T, Yoshioka N,

- Ono Y, Tajima T, Kubo M and Koike T: A rare case of Gitelman's syndrome presenting with hypocalcemia and osteopenia. *J Endocrinol Invest* 28(5): 464-468, 2005
5. Schlingmann KP, Sassen MC, Weber S, Pechmann U, Kusch K, Pelken L, Lotan D, Syrrou M, Prebble JJ, Cole DE, Metzger DL, Rahman S, Tajima T, Shu SG, Waldegger S, Seyberth HW and Konrad M: Novel TRPM6 Mutations in 21 Families with Primary Hypomagnesemia and Secondary Hypocalcemia. *J Am Soc Nephrol* 16: 3061-3069, 2005
  6. Tajima T, Tsubaki J and Fujieda K: Two novel mutations in the thyroid peroxidase gene with goitrous hypothyroidism. *Endocr J* 52(5): 643-645, 2005
  7. Ito N, Fukumoto S, Takeuchi Y, Yasuda T, Hasegawa Y, Takemoto F, Tajima T, Dobashi K, Yamazaki Y, Yamashita T and Fujita T: Comparison of two assays for fibroblast growth factor (FGF)-23. *J Bone Miner Metab* 23: 435-440, 2005
  8. Fukami M, Kato F, Tajima T, Yokoya S and Ogata T: Transactivation function of -800 bp evolutionarily conserved sequence at the SHOX 3' region. Implication for the downstream enhancer. *Am J Hum Genet* 78: 167-170, 2005
  9. Okamoto T, Kobayashi T, Naito H and Tajima T: A novel V2 vasopressin receptor mutation with X-linked nephrogenic diabetes insipidus. *Clin Pediatr Endocrinol* 15: 41-43, 2006
  10. Morita R, Takeuchi K, Nakamura A, Tajima T and Kuroda Y: Gitelman's syndrome with mental retardation. *Intern Med* 45: 211-213, 2006
  11. Kagami-Takasugi M, Katsumata N, Tanaka T, Tajima T and Fujieda K: Molecular genetic analysis of MODY candidate genes in Japanese patients with non-obese juvenile onset diabetes mellitus. *J Pediatr Endocrinol Metab* 19: 143-148, 2006

#### 和文総説

1. 藤枝憲二、田島敏広、向井徳男: 先天性副腎皮質ステロイド合成異常症の分子基盤. *医学のあゆみ* 213: 401-405, 2005
2. 田島敏広: 副腎皮質機能低下症. *周産期医学* 12: 1651-1653, 2005
3. 田島敏広: ドナヒュー症候群. *南山堂 医学大辞典改訂 19 版*: 1796, 2005
4. 田島敏広: 中枢性尿崩症. *小児慢性疾患診療マニュアル 診断と治療社*: 261-262, 2006
5. 田島敏広: 腎性尿崩症. *小児慢性疾患診療マニュアル 診断と治療社*: 263, 2006
6. 田島敏広: 抗利尿ホルモン分泌異常症. *小児慢性疾患診療マニュアル 診断と治療社*: 264-265, 2006

#### 学会発表

##### 全国学会

1. 伊藤善也, 蒔田芳男, 松尾公美浩, 鈴木 滋, 上田 修, 向井徳男, 田島敏広, 藤枝憲二: 成長ホルモン受容体 exon 3 欠失は成長ホルモンへの治療反応性を高めるか. 第 78

- 回日本内分泌学会学術総会、東京都、2005.7.1-3
2. 田島敏広, 勝又規行, 石川 博, 藤枝憲二: 新規 GH1 遺伝子変異を同定した遺伝性成長ホルモン欠損の 1 家系. 第 78 回日本内分泌学会学術総会、東京都、2005.7.1-3
  3. 村下真理, 久住一郎, 田島敏広, 小山 司: 第二世代抗精神病薬による体重増加の予知因子としてのアドレナリン受容体遺伝子多型の検討. 第 78 回日本内分泌学会学術総会、東京都、2005.7.1-3
  4. 深見真紀, 横谷 進, 田島敏広, 望月 弘, 緒方 勤: SHOX 遺伝子発現調節配列の同定. 第 39 回日本小児内分泌学会学術集会、東京都、2005.10.20-22
  5. 石津 桂, 椿 淳子, 澤村 豊, 田島敏広: トルコ鞍部黄色肉芽腫の 2 例. 第 39 回日本小児内分泌学会学術集会、東京都、2005.10.20-22
  6. 田島敏広, 鏡 雅代, 原田正平, 窪田 満, 田中敏章, 藤枝憲二: 成長障害 肝臓障害, 高尿酸血症を呈し, その後 MODY3 を発症した HNF-1<sub>β</sub>異常の 1 女児例. 第 39 回日本小児内分泌学会学術集会、東京都、2005.10.20-22
  7. 田島敏広, 石津 桂, 椿 淳子, 藤枝憲二: StAR 遺伝子に新規変異を認めた先天性 Lipoid 過形成症の 1 例. 第 13 回日本ステロイドホルモン学会、名古屋市、2005.11.12

#### 国際学会

1. Tajima T, Tsubaki J, Okuhara K: Japanese siblings of hereditary hypophosphatemic rickets with hypercalcaemia. The Endocrine Society 87th Annual Meeting, San Diego, 2005.6.4-7
2. Ito Y, Makita Y, Matsuo K, Suzuki S, Ueda O, Mukai T, Tajima T, Fujieda K: Influence of the exon 3 deleted isoform of GH receptor gene on growth response to GH in Japanese children. ESPE/LWPES 7th Joint Meeting, Lyon France, 2005.9.21-24
3. Tsubaki J, Ishidu K, Sawamura Y, Fujieda K, Tajima T: Gonadal dysfunction in female survivors after treatment of intracranial tumors. ESPE/LWPES 7th Joint Meeting, Lyon France, 2005.9.21-24
4. Tajima T, Tsubaki J, Okuhara K, Ogawa E, Fujieda K: Two Japanese patients caused by P450 oxidoreductase (POR) deficiency. ESPE/LWPES 7th Joint Meeting, Lyon France, 2005.9.21-24

#### 地方学会

1. 中島健夫, 塩野展子, 岡田善郎, 野呂 歩, 服部 司, 島畑頭治, 羽田健一, 島野敏司, 及川 衛, 田畑雅章, 奥山和彦, 晴山仁志, 田島敏広: 新生児一過性甲状腺機能亢進症を偶然合併した Bartter 症候群の一例. 第 10 回出生前診断研究会、札幌市、2005

#### 講演・シンポジウムなど

1. 田島敏広, 藤枝憲二: P450 と内分泌疾患—先天性副腎皮質過形成症を中心に—. 第 15 回臨床内分泌代謝: Update、札幌市、2005.3.24-25

2. 田島敏広、藤枝憲二: 新生児マススクリーニングでみつかると副腎疾患. 第 33 回新生児マススクリーニング学会、久留米市、2005.10.7-8
3. 田島敏広、藤枝憲二: 先天性副腎過形成症の遺伝子診断と出生前診断・治療. 第 108 回日本小児科学会総会、東京都、2005.4.22-24
4. 田島敏広、藤枝憲二: HESX1 と LHX4 の異常による複合型下垂体前葉ホルモン欠損症. 第 78 回日本内分泌学会学術総会、東京都、2005.7.1-3
5. 田島敏広: 先天性副腎疾患の病態解明と新しい治療法の開発. 第 78 回日本内分泌学会学術総会、東京都、2005.7.1-3
6. Fujieda K, Mukai T, Okuhara K, Tajima T: Transcriptional factors and adrenal development. ESPE/LWPES 7th Joint Meeting, Lyon France, 2005.9.21-24
7. 田島敏広: 第 3 回青森小児内分泌研究会 招待講演, 2005.11.5
8. 田島敏広: 第 30 回大阪成長障害研究会 招待講演, 2005.12.10
9. 田島敏広: 日本小児内分泌学会サマーセミナー講師, 2005.8.20
10. 田島敏広: リリースプリングセミナー講師, 2005.6.25-26

#### 社会貢献

- ・札幌市マススクリーニングコンサルタント医 (田島敏広)
- ・北海道マススクリーニングコンサルタント医 (田島敏広)

#### その他

- ・第78回日本内分泌学会研究奨励賞 2005 (田島敏広)

## 循環器グループ

### 所属メンバー

- ・村上智明（助手、平成元年卒）
- ・上野倫彦（医員、平成 3 年卒）
- ・武田充人（医員、平成 5 年卒）
- ・八鍬 聡（医員、平成 6 年卒）
- ・山澤弘州（大学院生、平成 11 年卒）

**入院患者数** のべ 197 人(全小児科病棟入院数の 42.3%) (2004 年 のべ 200 人 41.9%)

入院日数 9.0±7.9 日 (平均±SD) 中央値 7 日

(2004 年 8.7±12.3 日 中央値 6 日)

内訳	心臓カテーテルのための入院	126 例	(2004 年 121 例)
	術前の入院	26 例	(2004 年 29 例)
	術後管理のための入院	31 例	(2004 年 26 例)
	原病の管理 (心不全、不整脈など)	6 例	(2004 年 8 例)
	その他 (心疾患患者の上気道炎、胃腸炎など)	8 例	(2004 年 13 例)
心臓カテーテル検査		138 件	(2004 年 137 件)
うち intervention		13 件(9.4%)	(2004 年 23 件-16.8%)
	バルーン拡大術 肺動脈弁性狭窄		3 件
	大動脈縮窄 (術後)		1 件
	ステント留置術 末梢肺動脈ステント留置		1 件
	コイル留置術 動脈管開存コイル閉鎖		4 件
	Fontan 手術前の体-肺動脈側副血行路コイル閉鎖術		1 件
	その他 心房中隔裂開術		3 件
入院患児のエコー検査			
	video 記録された full study	297 件	(2004 年 323 件)

### 外来

月 (武田)、水 (村上)、木 (上野) の週 3 回

外来検査

外来エコー検査	745 件	(2004 年 713 件)
ホルター心電図	148 件	(2004 年 151 件)
運動負荷心電図 (トレッドミル)	17 件	(入院・外来あわせて)

### 関連病院心外来など

週 1 回

市立札幌病院 (武田)

月 2 回

幌南病院（八鍬）、天使病院（村上）、市立千歳市民病院（八鍬）

月 1 回

北海道がんセンター（武田）、市立小樽病院（村上）、帯広厚生病院（上野）、  
市立美唄病院（上野）、美唄労災病院（上野）、日鋼記念病院（村上）、  
釧路労災病院（村上）、札幌厚生病院（11 月から上野）

町立中標津病院（武田）、倶知安厚生病院（上野）、王子総合病院（村上）

天使病院-成人先天性心疾患外来（9 月から村上）

隔月

市立根室病院（八鍬）

その他

市立三笠病院（年 1 回村上）、栗山赤十字病院（年 2 回上野）

### 学校心電図など

札幌市（村上、上野）、江別市（上野）、石狩市（村上）、千歳市（八鍬）、  
北海道医師会（村上）

### 発表論文

1. 村上智明、上野倫彦: Fallot 四徴症術後の左肺動脈狭窄に対するステント留置: 血行動態的改善の予測因子. J Cardiol 45: 149-154, 2005
2. Murakami T and Takeda A: Enhanced aortic pressure wave reflection in patients after repair of aortic coarctation. Ann Thorac Surg 80: 995-1000, 2005
3. Makita N, Sasaki K, Groenewegen WA, Yokota T, Yokoshiki H, Murakami T and Tsutsui H: Congenital atrial standstill associated with coinheritance of a novel SCN5A mutation and connexin 40 polymorphisms. Heart Rhythm 2: 1128-1134, 2005
4. 村上智明: 心室中隔欠損症・心房中隔欠損症術後のフォローはどの程度必要でしょうか?. 小児内科 37: 1630-1631, 2005

### 学会発表

1. 坂崎尚徳、中澤 誠、丹羽公一郎、村上智明、高室基樹、小山耕太郎、百々秀心、高橋一浩、宮本朋幸、森 克彦、松島正気、松村正彦、越後茂之、塚野真也、福嶋教偉、馬場 清、赤木禎治、城尾邦隆、姫野和家子: 成人チアノーゼ性心疾患症例の社会生活と心機能 - 多施設共同研究 - (Social life and cardiac function of adult patients with cyanotic congenital heart disease - A multi-center study -). 第 7 回日本成人先天性心疾患研究会、東京都、2005.1.8
2. 坂崎尚徳、中澤 誠、丹羽公一郎、村上智明、高室基樹、小山耕太郎、百々秀心、高橋一浩、宮本朋幸、森 克彦、松島正気、松村正彦、越後茂之、塚野真也、福嶋教偉、馬場 清、赤木禎治、城尾邦隆、姫野和家子: 成人チアノーゼ性心疾患症例の生命予後および罹病率の検討 - 多施設共同研究 - (Study of the mortality and morbidity of adult patients with cyanotic congenital heart disease - A multi-center study -). 第 7 回

- 日本成人先天性心疾患研究会、日本小児循環器学会研究委員会 “成人チアノーゼ性先天性心疾患の予後に関する酸素飽和度の重要性”、東京都、2005.1.8
3. 村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬 聡、盛一享徳：大動脈縮窄症にバルーン拡張術を施行した一例－手術例との圧波形の比較－. 第 16 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 研究会、名古屋市、2005.1.13
  4. 上野倫彦、盛一享徳、八鍬 聡、武田充人、村上智明、窪田 満：糖原病 I a 型に合併した肺高血圧症 症例の治療経過(第 2 報)－ベラプロストナトリウムに加えて開始したシルデナフィル療法の急性効果および 1 年間の治療経過－. 第 11 回日本小児肺循環研究会、東京都、2005.2.5
  5. 村上智明、盛一享徳、八鍬 聡、武田充人、上野倫彦、有賀 正、中澤 誠：大血管スウィッチ手術後の潜在的な心筋虚血は大動脈リザーバー機能の低下が原因である. 第 108 回日本小児科学会学術集会、東京都、2005.4.22
  6. 村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬 聡：大動脈縮窄症にバルーン拡張術を施行した一例－手術例との圧波形の比較－. 第 5 回臨床動脈波研究会、東京都、2005.5.28
  7. 八鍬 聡、村上智明、盛一享徳、武田充人、上野倫彦、窪田武浩、石川司朗、角 秀秋：肺血流減少型の心房内臓錯位症候群に対する当科の治療方針. 第 41 回日本小児循環器学会学術集会、東京都、2005.7.6
  8. 村上智明、盛一享徳、八鍬 聡、武田充人、上野倫彦：小児における augmentation index－正常曲線の作成－. 第 41 回日本小児循環器学会学術集会、東京都、2005.7.6
  9. 武田充人、村上智明、盛一享徳、八鍬 聡、上野倫彦：成人未手術大動脈縮窄症におけるバルーン拡大術後の aortic stiffness. 第 41 回日本小児循環器学会学術集会、東京都、2005.7.6
  10. 松岡瑠美子、小穴慎二、市田露子、小川俊一、小野安生、小山耕太郎、上砂光裕、黒江兼司、里見元義、城尾邦隆、白石 公、高橋悦郎、塚野真也、富田 英、中川雅生、中西敏雄、羽根田紀幸、馬場 清、広田浜夫、福重淳一郎、松裏裕行、村井孝安、村上智明、森 克彦、森 一博、安田東始哲、山岸敬幸、吉永正夫：Down 症候群に認められる心血管疾患の特徴. 第 41 回日本小児循環器学会学術集会、日本小児循環器学会心血管疾患の遺伝子疫学委員会、東京都、2005.7.7
  11. 上野倫彦、盛一享徳、八鍬 聡、武田充人、村上智明：フォンタン手術後患者における血中エンドセリン-1 濃度の検討. 第 41 回日本小児循環器学会学術集会、東京都、2005.7.7
  12. 山崎康博、兼次洋介、山澤弘州、八鍬 聡、武田充人、上野倫彦、村上智明：Bentall 手術を施行した Marfan 症候群の 1 例. 第 57 回北日本小児科学会、福島市、2005.9.17
  13. 兼次洋介、山崎康博、山澤弘州、八鍬 聡、武田充人、上野倫彦、村上智明、村下十志文、中島健夫、服部 司：出生直後より気管圧迫症状を認めた重複大動脈弓の一例. 第 57 回北日本小児科学会、福島市、2005.9.17
  14. 上野倫彦、村上智明、山澤弘州、八鍬 聡、武田充人：小児肥大型心筋症におけるシベンゾリンの血行動態に対する急性および慢性効果. 第 53 回日本心臓病学会学術集会、大阪市、2005.9.20

15. 村上智明、上野倫彦: 大動脈縮窄症遠隔期の高血圧・心血管病の成因: 修復部における圧反射に関する検討. 第 53 回日本心臓病学会学術集会 パネルディスカッション、大阪市、2005.9.21
16. 山澤弘州、村上智明、上野倫彦、八鍬 聡、武田充人、帯金克行、中島泰志、佐々木聡、有賀 正、森田 研、渡井至彦、野々村克也: 小児の血液透析における dry weight の設定. 第 15 回北海道小児腎臓病研究会、札幌市、2005.10.15
17. 村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬 聡、山澤弘州: アンギオテンシン変換酵素阻害剤: 血行動態改善、慢性心不全治療を目的とした使用について. 第 32 回日本小児臨床薬理学会 Round Table Discussion、東京都、2005.10.21
18. 村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬 聡、山澤弘州: Fontan 循環における肺循環側圧波形. 第 25 回日本小児循環動態研究会ミニシンポジウム、福岡市、2005.10.22
19. 横山岳彦、岩佐充二、石井睦夫、神農英雄、山川 聡、村上智明: 小児骨髄移植後急性期での心拍出量の経時的変化. 第 25 回日本小児循環動態研究会、福岡市、2005.10.22
20. 上野倫彦、村上智明、山澤弘州、八鍬 聡、武田充人: 左室容量負荷をきたした動脈管開存症の手術後急性期における心機能について. 第 25 回日本小児循環動態研究会、福岡市、2005.10.22
21. 村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬 聡、山澤弘州、仲西正憲: Isolated Left Pulmonary Artery Stenosis の一例 エコー診断の pitfall. 第 45 回北海道小児循環器研究会、札幌市、2005.11.5

## 著書

1. 村上智明: I 総論/治療総論 薬物療法. 中澤 誠編 先天性心疾患 新・目で見える循環器病シリーズ 13. 東京: メジカルビュー社: 52-56, 2005
2. 村上智明: V 主として幼小児期に発症する心疾患/房室弁閉鎖不全 Ebstein 奇形. 中澤 誠編 先天性心疾患 新・目で見える循環器病シリーズ 13. 東京: メジカルビュー社: 346-352, 2005
3. 村上智明: V 主として幼小児期に発症する心疾患/房室弁閉鎖不全 僧帽弁閉鎖不全. 中澤 誠編 先天性心疾患 新・目で見える循環器病シリーズ 13. 東京: メジカルビュー社: 353-358, 2005

## 新生児グループ

### 所属メンバー

- ・長 和俊（助教授、昭和 60 年卒）
- ・岡嶋 覚（医員、平成 2 年卒）
- ・内田雅也（医員、平成 5 年卒）
- ・上田恵子（医員、平成 8 年卒）
- ・小西祥平（大学院生、平成 11 年卒）

外来患者数	小児科新生児外来	788 人/年
	産科外来（1 ヶ月健診）	308 人/年

### 体重区分別新生児数

体重区分	新生児数	死亡数
～1,000g	12	2
1,000～1,500g	17	0
1,500～2,000g	27	3
2,000～2,500g	45	1
2,500～4,000g	201	1
4,000g～	2	0
計	304	7

### 多胎症例数

双胎 14 組 27 例 （1 児無心体 1 組）  
 品胎 2 組 6 例

### 発表論文

1. Ueda K, Cho K, Matsuda T, Okajima S, Uchida M, Kobayashi Y, Minakami H and Kobayashi K: A Rat Model for Arrest of Alveolarization Induced by Antenatal Endotoxin Administration. *Pediatr Res* 59: 396-400, 2006
2. Cho K, Nakata K, Ariga T, Okajima S, Matsuda T, Ueda K, Furuta I, Kobayashi K and Minakami H: Successful treatment of congenital pulmonary alveolar proteinosis with gammaglobulin administration. *Respirology* 11: S74-S77, 2006
3. Okajima S, Cho K, Chiba H, Azuma H, Mochizuki T, Yamaguchi M, Sato S, Ikeda H, Yamada H, Minakami H, Ariga T and Kobayashi K: Two sibling cases of hydrops fetalis due to alloimmune anti-CD36 (Nak<sup>a</sup>) antibody. *Thromb Haemst* 95: 267-271, 2006
4. Morikawa M, Yamada T, Cho K, Yamada H and Minakami H: Prenatal Diagnosis

- and Therapy of Persistent Cloaca: a Case Report. *Fetal Diagn Ther*: 429, 2006
5. Kataoka S, Yamada T, Cho K, Nishida R, Morikawa M, Minami M, Yamada H, Sakuragi N and Minakami H: Association between preterm birth and vaginal colonization by mycoplasmas in early pregnancy. *J Clin Microbiol* 44: 51-55, 2006
  6. Okada T, Sasaki F, Cho K, Itoh T, Ota S and Todo S: Histological differentiation between prenatally diagnosed choledochal cyst and type I cystic biliary atresia using liver biopsy specimens. *Eur J Pediatr Surg* 16: 28-33, 2006
  7. Murata S, Matsuda T, Kiguchi S, Kobayashi M, Cho K and Okuyama K: Effects of long term administration of KUR-1246, a selective beta(2)-adrenoceptor agonist, on pregnant sheep and their fetuses. *BJOG* 112: 69-74, 2005
  8. Morikawa M, Yamada T, Kataoka S, Cho K, Yamada H, Suzuki S, Sakuragi N and Minakami H: Changes in antithrombin activity and platelet counts in the late stage of twin and triplet pregnancies. *Semin Thromb Hemost* 31: 290-296, 2005
  9. 長 和俊: 新生児の基準値を知ろうー血算・血液像. *Neonatal Care* 19: 218-223, 2006
  10. 長 和俊、大鎌茂子: 胎児水腫. *Neonatal Care* 18: 372-376, 2005
  11. 長 和俊: 呼吸窮迫症候群の児. *Neonatal Care* 2005 年秋期増刊: 118-125, 2005
  12. 長 和俊: 血液キメラ. *産科と婦人科* 72: 748-753, 2005
  13. 長 和俊: 二卵性一絨毛膜性双胎の抱える問題. *産婦人科の実際* 54: 1093-1101, 2005
  14. 長 和俊、岡嶋 覚、内田雅也、上田恵子、小西祥平、山田 俊、山田秀人、水上尚典: 慢性肺障害児の栄養管理. *周産期医学* 35: 571-574, 2005
  15. 長 和俊: 成熟度評価. *周産期医学* 35: 1441-1446, 2005
  16. 森川 守、山田秀人、平山恵美、片岡宙門、島田茂樹、渡利道子、山田 俊、長 和俊、森本裕二、水上尚典: 脊髄損傷合併妊娠の 1 例. *周産期医学* 35: 427-430, 2005
  17. 森川 守、山田秀人、山田 俊、平山恵美、島田茂樹、片岡宙門、長 和俊、水上尚典: 胎児尿膜管遺残の 1 例. *周産期医学* 35: 875-877, 2005

## 学会発表

### 国内学会・研究会

1. 長 和俊: 慢性肺障害児の栄養管理. 第 5 回新生児栄養フォーラムワークショップ「慢性期の栄養管理」、東京都、2005.6.10-11
2. 長 和俊: 新生児同種免疫性血小板減少症の同胞に対する周産期管理の経験. 第 15 回日本産婦人科・新生児血液学会、奈良市、2005.6.3-4
3. 長 和俊: 出生前診断されなかった総排泄腔遺残症の 2 例. 第 41 回日本周産期・新生児医学会、福岡市、2005.7.10-12
4. 長 和俊: 新生児・乳児呼吸器疾患の特徴とケア. 第 45 回臨床呼吸機能講習会、札幌市、2005.8.23-26
5. 長 和俊: 体重曲線の瘤. 第 18 回新生児慢性肺疾患研究会、浦安市、2005.10.22
6. 小西祥平: Hirschsprung 病を合併した肢先端脳梁症候群の 1 例. 第 50 回日本未熟児新生児学会、名古屋市、2005.12.4-6

7. 長 和俊: 胎児肺成熟の評価法. 第 50 回日本未熟児新生児学会ランチョンセミナー、名古屋市、2005.12.4-6
8. 長 和俊: 超低出生体重児の蘇生. 第 8 回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム、ビデオセッション

#### 国際学会

1. Cho K: Clinical outcome of very low birth weight infants in Hokkaido University Hospital. 少子高齢化に関する国際シンポジウム、札幌市、2004.10.15-16

#### 研修会・その他

1. 長 和俊: 極低出生体重児における体重曲線の解析. 第 18 回北海道新生児談話、札幌市、2005.9.17

## 感染グループ

### 所属メンバー

- ・石黒信久（助手、北大病院感染制御部、昭和 59 年卒）
- ・遠藤理香（医員、平成 8 年卒）

外来患者数 60 人/年（HBV, HCV キャリアーのフォローが中心）

その他：石黒は北大病院の感染制御部副部長として院内感染対策の業務に当たると同時に、各診療科からの感染症の診断と治療の相談を引き受けている。

### 研究内容

- ・ヒトメタニューモウイルス及びヒトボカウイルスの臨床的・基礎的研究

### 競合的外部資金

- ・科学研究費補助金 基盤研究（C）  
ヒト・メタニューモウイルス表面膜蛋白（F、G、SH）の機能解析と臨床への応用

### 発表論文

1. Endo R, Ishiguro N and Kikuta H: Usefulness of parenteral colistin in treating of lower respiratory infection due to multidrug-resistant *Pseudomonas aeruginosa*. *Kansenshogaku Zasshi* 79: 945-950, 2005
2. Ma X, Endo R, Ebihara T, Ishiguro N, Ishiko H and Kikuta H: Production and characterization of neutralizing monoclonal antibodies against human metapneumovirus F protein. *Hybridoma (Larchmt)*24: 201-205, 2005
3. Ebihara T, Endo R, Ma X, Ishiguro N and Kikuta H: Lack of association between New Haven coronavirus and Kawasaki disease. *J Infect Dis* 192: 351-352 author reply 353, 2005
4. Ebihara T, Endo R, Kikuta H, Ishiguro N, Ma X, Shimazu M, Otoguro T and Kobayashi K: Differential gene expression of S100 protein family in leukocytes from patients with Kawasaki disease. *Eur J Pediatr* 164: 427-431, 2005
5. Ebihara T, Endo R, Ma X, Ishiguro N and Kikuta H: Detection of human metapneumovirus antigens in nasopharyngeal secretions by an immunofluorescent-antibody test. *J Clin Microbiol* 43: 1138-1141, 2005
6. Ebihara T, Endo R, Ma X, Ishiguro N and Kikuta H: Detection of human coronavirus NL63 in young children with bronchiolitis. *J Med Virol* 75: 463-465, 2005
7. Ishiguro N, Ebihara T, Endo R, Ma X, Shiotsuki R, Ochiai S, Ishiko H and Kikuta H: Immunofluorescence assay for detection of human metapneumovirus-specific antibodies by use of baculovirus-expressed fusion protein. *Clin Diagn Lab Immunol* 12: 202-205, 2005

**学会発表****全国学会**

1. 石黒信久：バキュロウイルス系を用いた抗ヒト・メタニューモウイルス F 蛋白抗体の測定. 第 37 回日本小児感染症学会総会、津市、2005.11.11-12
2. 遠藤理香：多剤耐性緑膿菌による慢性気管支炎に静注用 Colistin 製剤が有効であった 嚢胞性線維症の 1 例. 第 37 回日本小児感染症学会総会、津市、2005.11.11-12

**講演・シンポジウムなど**

1. 石黒信久：小児科医からみた院内感染管理. 第 86 回札幌市耳鼻咽喉科医会 学術研修会 2006.3.4

**社会貢献**

- ・札幌感染管理研究会代表幹事（石黒信久）

## 遺伝染色体グループ

### 所属メンバー

- ・ 外木秀文（北海道大学病院小児科遺伝染色体外来担当（週一回）、天使病院臨床遺伝診療室、昭和 57 年卒）
- ・ 佐藤大介（北海道大学大学院医学研究科博士課程、現長崎大学原研遺伝部門、平成 10 年卒）
- ・ 中本 哲（北海道大学大学院医学研究科博士課程、現横浜市立大学医学部環境分子医科学、平成 11 年卒）

平成 17 年度外来実績            のべ患者数    88 人/年            新患者数    22 人/年

### 患者内訳

複雑な染色体異常症，ダウン症，プラダー・ウィリー症候群，プロテウス症候群，その他詳細不明の先天奇形症候群

臨床研究：歌舞伎症候群の原因遺伝子解析，Axenfeld-Rieger 症候群の染色体異常と原因遺伝子の解析，変容性骨異形成症の原因遺伝子の解析，ダウン症候群の責任遺伝子領域の詳細な検討（いずれも天使病院臨床遺伝診療室と他の研究施設との共同研究）

### 発表論文

1. Miyake N, Tonoki H, Gallego M, Harada N, Shimokawa O, Yoshiura K, Ohta T, Kishino T, Niikawa N and Matsumoto N: Phenotype-genotype correlation in two patients with 12q proximal deletion. *J Hum Genet* 49: 282-284, 2004
2. Miyake N, Visser R, Kinoshita A, Yoshiura K, Niikawa N, Kondoh T, Matsumoto N, Harada N, Okamoto N, Sonoda T, Naritomi K, Kaname T, Chinen Y, Tonoki H and Kurasawa K: Four novel NIPBL mutations in Japanese patients with Cornelia de Lange syndrome. *Am J Med Genet A* 135: 103-5, 2005
3. Nagai T, Obata K, Tonoki H, Temma S, Murakami N, Katada Y, Yoshino A, Sakazume S, Takahashi T, Sakuta R and Niikawa N: Cause of sudden, unexpected death of Prader-Willi syndrome patients with or without growth hormone treatment. *Am J Med Genet A* 136: 45-8, 2005
4. Miyake N, Shimokawa O, Harada N, Sosonkina N, Okubo A, Kawara H, Okamoto N, Ohashi H, Kurosawa K, Naritomi K, Kawame T, Nagai T, Shotelersuk V, Hou JW, Fukushima Y, Kondoh Y, Matsumoto T, Shinoki T, Kato M, Tonoki H, Nomura M, Yoshiura KI, Kishino T, Ohta T, Niikawa N and Matsumoto N: No detectable genomic aberrations by BAC array CGH in Kabuki make-up syndrome patients. *Am J Med Genet A* 140A: 291-293, 2006
5. Ichikawa M, Okajima M, Wada T, Gokan Y, Shimakage H, Tonoki H and Saitoh S: Non-chromosome 15 marker chromosome in a Prader-Willi syndrome patient with

uniparental disomy. *Pediatr Internatl* 48: 1-2, 2006

6. Obikane K, Nakashima T, Watarai Y, Morita K, Cho K, Tonoki H, Nagata M and Sasaki S: Renal failure due to tubuloinerstitial nephropathy in an infant with cranioectodermal dysplasia. *Pediatric Nephrol* 21: 574-576, 2006
7. 外木秀文: 体細胞遺伝病. *日本臨床* 63(supple 12): 81-86, 2005

#### 学会発表

1. 外木秀文: 先天性白内障, 聴力障害, 特異顔貌, 口蓋裂, 発達遅滞などの所見を有する 1 乳児. 第 28 回日本小児遺伝学会・第 5 回臨床遺伝合同学術集会、倉敷市、2005.9.22
2. 中本 哲, 城和歌子, 奥原宏治, 高橋伸浩, 外木秀文, 古賀康嗣, 渡利道子: Beckwith-Wiedemann 症候群と診断された 2 例についての検討. 第 8 回北海道出生前診断研究会、札幌市、2005.11

## 代謝消化器グループ

### 所属メンバー

- ・窪田 満 (助手、昭和 61 年卒、平成 18 年 3 月まで)
- ・竹田優子 (大学院生、平成 8 年卒、平成 17 年 9 月まで)
- ・木田和宏 (大学院生、平成 10 年卒、平成 17 年 11 月から)

外来患者数 833 人/年

入院患者数 24 人/年

### その他の特色ある診療内容

#### 【先天代謝異常症】

リソソーム病 (ムコ多糖症、Fabry 病 Tay-Sachs 病)	5 例
メンケス病および Occipital horn 症候群	3 例
尿素サイクル異常症 (OTCD、古典的シトルリン血症)	2 例
脂肪酸代謝異常症 (グルタル酸尿症 II 型) および横紋筋融解症	2 例
NICCD (neonatal intrahepatic cholestasis caused by citrin deficiency)	2 例
メチルマロン酸血症 (生体肝移植)	1 例
フェニルケトン尿症	1 例
糖原病 Ia 型	1 例

#### 【肝臓疾患】

Alagille 症候群	2 例
Progressive Familial Intrahepatic Cholestasis (PFIC, Byler 病)	1 例
高ガラクトース血症 (門脈血流低下)	1 例

#### 【消化管疾患】

潰瘍性大腸炎	2 例
難治性下痢症 (過敏性腸症候群)	1 例

### 研究内容

小児消化管および肝における生体防御・感染・アレルギー

- ・難治性下痢症、嘔吐症とアレルギー性胃腸症に関する治療と研究
- ・ヘリコバクター胃炎の発症メカニズムに関する研究
- ・原因不明の肝炎、肝硬変の診断・治療
- ・先天性肝内胆汁うっ滞 (アラジール症候群、バイラー病) の治療
- ・生体肝移植のコーディネート

先天代謝異常症の診断と治療

- ・尿素サイクル異常症の治療
- ・マス・スクリーニング対象疾患の診断と治療
- ・糖原病

- ・リソソーム病（ムコ多糖症、ムコリピドーシス、Fabry 病など）
- ・銅代謝異常症（ウィルソン氏病、メンケス病）
- ・原発性高シュウ酸尿症

### 競合的外部資金

- ・先天代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡システムの構築（松原班）（研究協力者；窪田 満）
- ・小児超希少疾患治療薬の開発（遠藤班）（研究協力者；窪田 満）
- ・シックハウス研究班（石川班）（研究協力者；窪田 満）

### 発表論文

1. 窪田 満：小児の食と栄養 Q&A 5. 栄養所要量 2「小児で欠乏しやすいビタミン、ミネラルは？」. 小児内科 37(5): 619-622, 2005

### 学会発表

#### 全国学会

1. 窪田 満他: 習慣性便秘症と fecal soiling の治療. 第 108 回日本小児科学会、東京都、2005
2. 窪田 満他: ムコ多糖症に対する造血幹細胞移植 -3 例の脳 MRI の経過-. 第 4 回東北代謝異常症治療研究会、仙台市、2005
3. 窪田 満他: 小児期における肝移植適応基準の検討 -当院の実績と PELD score-. 第 23 回 日本肝移植研究会、札幌市、2005
4. 窪田 満他: 「におい」で嘔吐が誘発される姉妹に噴門形成術を行ったが... 第 32 回日本小児栄養消化器肝臓学会、久留米市、2005
5. 城 和歌子他: タンデム質量分析計により診断されたグルタル酸尿症 2 型の 1 例. 第 33 回日本マス・スクリーニング学会、久留米市、2005
6. 窪田 満他: 糖新生障害としてのシトリン欠損症 -乳酸/ピルビン酸比の重要性-. 第 48 回日本先天代謝異常学会、熊本市、2005
7. 窪田 満他: 腹腔鏡補助下全結腸切除術後、回腸瘻管理の間に抑うつ状態をきたした女児例. 第 6 回小児 IBD 研究会、東京都、2006
8. 木田和宏他: 潰瘍性大腸炎と低身長 -成長ホルモン分泌不全を伴った一例-. 第 6 回小児 IBD 研究会、東京都、2006

#### 地方学会

1. 窪田 満他: 習慣性便秘症と fecal soiling の診断と治療. 北海道小児保健研究会、札幌市、2005
2. 佐藤泰征他: 左内頸動脈欠損を伴った Alagille 症候群の 1 乳児例. 日本小児科学会北海道地方会第 264 例会、札幌市、2005

3. 高橋春子他: 体重増加不良を契機に発見されたシトリン欠損症 (NICCD) の 1 例. 日本小児科学会北海道地方会第 264 例会、札幌市、2005

#### 講演・シンポジウムなど

1. 窪田 満: 尿素サイクロ異常症の診断と治療. 京都 MEK 研究会特別講演、京都市、2005
2. 窪田 満: 症例検討. 第 1 回日本先天代謝異常学会セミナー講師、東京都、2005

#### 社会貢献

- ・ 北海道および札幌市より先天代謝異常等検査業務相談医を委嘱 窪田 満
- ・ 北海道・東北地区ファブリー病セミナー (患者様向け、事務局、座長) 窪田 満、札幌市、2005

## 市立札幌病院

### 所属メンバー

#### 小児科

- ・ 富樫武弘 (院長、昭和 40 年卒)
- ・ 福島直樹 (医長、昭和 46 年卒)
- ・ 須藤 章 (平成 3 年卒)
- ・ 藤原ふみえ (平成 11 年卒)
- ・ 古川卓朗 (平成 12 年卒)

#### 新生児科

- ・ 服部 司 (昭和 49 年卒)
- ・ 中島建夫 (昭和 53 年卒)
- ・ 野呂 歩 (平成 8 年卒)
- ・ 岡田善郎 (平成 10 年卒、平成 17 年 9 月まで)
- ・ 塩野展子 (平成 11 年卒)

### 専門外来

心臓外来 (×1/週)

---

病院全体の医師数	189 人
小児科医師数	5+5 (新生児) 人 (うち非常勤 1 人)
病院全体の病床数	1,064 床 (本院 810、静療院 254)
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	45 床
NICU病床数	9 床
新生児病床数(NICUを除く)	32 床
NICU としての認定	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">あり</span> 、なし
平均小児科外来数	150 人/日
平均時間外外来数	人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,100 人/年
年間のべ入院患者数	11,000 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	250 人/年
年間分娩数	600 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	200 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	60 人/年
年間呼吸管理患者数	80 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 札幌厚生病院

### 所属メンバー

- ・ 今野武津子 (昭和 47 年卒)
- ・ 高橋美智子 (昭和 58 年卒)
- ・ 佐藤孝平 (平成 3 年卒)
- ・ 三野絵美 (平成 8 年卒、平成 17 年 9 月まで)

### 専門外来

- 腎臓外来 (佐々木聡)
- 神経外来 (斉藤伸治)
- 心臓外来 (上野倫彦)
- 内分泌外来 (藤枝憲二、佐藤孝平)

---

病院全体の医師数	104 人
小児科医師数	4 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	494 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	23 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	1 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	65 人/日
平均時間外外来数	3.8 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,269 人/年
年間のべ入院患者数	8,736 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	278 人/年
年間分娩数	162 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	15 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

## 発表論文の詳細

1. 小池通夫、田尻 仁、奥田真珠美、宮沢麗子、清水俊明、今野武津子、吉村文一、宮代英吉、坊岡美奈、林 寛子、友政 剛、福田能啓：新しい便中抗原測定法の小児期H. pylori感染診断に対する有用性評価-<sup>13</sup>C尿素呼気試験との比較ならびに小児期鉄欠乏性貧血とH. pyloriとの関連について. 日本ヘリコバクター学会誌 7(1): 1-12, 2005
2. 今野武津子：Helicobacter 研究のレビューと今後の展望 小児における H. pylori 感染をみる. Helicobacter Research 9(3): 242-249, 2005
3. 今野武津子：小児における ITP の治療方針と Helicobacter pylori の関与を探る. Helicobacter Research 9(4): 323-329, 2005
4. 今野武津子：Helicobacter pylori と血液疾患との関連. 日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌 19(1): 28-33, 2005
5. 今野武津子、小林昭夫、友政 剛、金子浩章、豊田 茂、中里 豊、根津理一郎、米沢俊一、三木和典：小児クローン病治療指針案. 第 31 回日本小児栄養消化器肝臓学会シンポジウム：小児炎症性腸疾患の治療指針 日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌 19(1): 64-69, 2005
6. 今野武津子：＜消化器疾患＞ 経腸栄養剤の種類と使い分けは？. 小児内科 37(5): 673-676, 2005
7. 今野武津子：小児腹痛の単純 X 線・造影 X 線検査. 臨床消化器内科 20(6): 655-661, 2005
8. 今野武津子：鉄欠乏性貧血－これまでの研究成果と Helicobacter pylori 除菌後の長期予後－. Helicobacter Research 9(6): 520-527, 2005
9. 今野武津子、小林昭夫、友政 剛、金子浩章、豊田 茂、中里 豊、根津理一郎、米沢俊一、三木和典：小児クローン病治療指針案. 日本小児科学会雑誌 109(7): 815-820, 2005
10. 今野武津子：繰り返す子どもの腹痛には消化管の検査を. ふれあい 31: 4-5, 2005
11. 今野武津子：小児の炎症性腸疾患 (IBD) の臨床. 第 16 回日本小児科医会セミナーから日本小児科医会会報 30: 29-34, 2005
12. 加藤晴一、今野武津子、清水俊明、豊田 茂、田尻 仁、奥田真珠美、藤澤卓爾：小児期ヘリコバクター・ピロリ感染症の診断、治療、および管理指針. 日本小児科学会雑誌 109(10): 1297-1300, 2005
13. 今野武津子：小児炎症性腸疾患の治療指針－新しい治療指針案を中心に－. 小児内科 37(11): 1455-1460, 2005
14. 今野武津子：H. pylori 除菌療法 病態からみた除菌療法 小児の除菌療法. 日本臨床増刊号 63(11): 470-473, 2005
15. 今野武津子：消化管内視鏡検査 小児の内視鏡. 消化器疾患診療実践ガイド 検査編 画像診断 3: 176, 2005
16. Konno M, Fuji N, Yokota S, Sato K, Takahashi M, Sato K, Mino E and Sugiyama T: Five-Year Follow-Up Study of Mother-to-Child Transmission of Helicobacter pylori Infection Detected by a Random Amplified Polymorphic DNA Fingerprinting Method.

## 学会発表

## 全国学会

1. 今野武津子、高橋美智子、佐藤孝平ほか：乳児血便の臨床的・病因論的検討. 第 30 回札幌市医師会医学会、札幌市、2005.2.20
2. 今野武津子、佐藤孝平、高橋美智子ほか：結石を合併したクローン病の 3 症例. 第 5 回日本小児 IBD 研究会、東京都、2005.3.20
3. 今野武津子、藤井暢広、横田伸一ほか：Helicobacter pylori の家族内伝播は母子感染が優位である—Random amplified polymorphic DNA fingerprinting による菌株 DNA の検討. 第 11 回日本ヘリコバクター学会、岡山市、2005.7.1
4. 今野武津子、藤井暢広、横田伸一ほか：H. pylori の家族内伝播は母子感染が優位である—Random amplified polymorphic DNA fingerprinting による菌株 DNA の検討. 第 32 回日本小児栄養消化器肝臓学会、久留米市、2005.10.8

## 地方学会

1. 久保俊之、三野絵美、佐藤孝平、高橋美智子、今野武津子：サクラマス生食後に家族内に発生した広節裂頭条虫. 日本小児科学会北海道地方会第 263 回例会、旭川市、2005.7.3
2. 佐々木尚子、高橋美智子、佐藤孝平、三野絵美、今野武津子：当科における膵胆管合流異常症 9 症例の検討—先天性胆道拡張症の合併症例と非合併症例. 日本小児科学会北海道地方会第 264 回例会、札幌市、2005.11.27

## 講演会・セミナー

1. 今野武津子：鳥肌胃炎—小児科の立場から—. 第 2 回胃の形態と機能研究会、東京都、2005.5.28
2. 今野武津子：小児炎症性腸疾患 (IBD). 第 16 回日本小児科医会セミナー教育講演、札幌市、2005.6.12

## KKR 札幌医療センター

### 所属メンバー

- ・高橋 豊（小児センター長、昭和 50 年卒）
- ・鹿野高明（小児科部長、昭和 52 年卒）
- ・川原朋乃（平成 9 年卒、平成 17 年 5 月まで）
- ・田端祐一（平成 11 年卒）
- ・米川元晴（平成 11 年卒）
- ・羽田美保（平成 14 年卒、平成 17 年 6 月～）

### 専門外来

神経外来（坂井多恵子、×2/月）

心臓外来（八鍬 聡、×2/月）

喘息アレルギー外来（高橋 豊）

内分泌外来（高橋 豊）

血液外来（鹿野高明）

---

病院全体の医師数	60 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	450 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	34 床
NICU病床数	2 床
新生児病床数(NICUを除く)	床
NICU としての認定	あり、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">なし</span>
平均小児科外来数	84.7 人/日
平均時間外外来数	3.3 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	2,006 人/年
年間のべ入院患者数	13,665 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	705 人/年
年間分娩数	417 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	45 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	3 人/年
年間呼吸管理患者数	11 人/年(babyの呼吸器管理は 6)

## 発表論文の詳細

1. 鹿野高明、大倉有加、中村明枝、川原朋乃、藤原ふみえ、高橋 豊：耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）と非 MRSA によるブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群の臨床像の比較. 共済医報 54(1): 9-13, 2005
2. 藤原ふみえ、中村明枝、佐藤宏紀、川原朋乃、鹿野高明、高橋 豊：皮下腫瘍による toxic shock syndrome の 1 例. 小児科 46: 456-460, 2005
3. 高橋 豊：ウイルス性気道感染症の病体解析とその後の喘息発症予測因子解明に関する研究. 環境保全機構委託事業「乳幼児を対象とした診査・介入による事業展開の重点化に関する研究報告書」平成 16 年度 森川昭廣編: 41-49
4. 高橋 豊、佐藤宏紀、川原朋乃、藤原ふみえ、鹿野高明、海老原敬、石黒信久、菊田英明：Human metapneumovirus が発作誘発に関与したと考えられる小児喘息患児の検討. 喘息 18: 77-80, 2005
5. 川原朋乃、佐藤宏紀、藤原ふみえ、鹿野高明、高橋 豊：最近経験した細菌性髄膜炎 8 例の検討－発熱早期に治療を開始した一例を中心に－. 幌南病院医学雑誌 2: 14-17, 2005
6. 近藤富雄、清沢伸幸、安田 正、高橋 豊他：平成 16 年度診療報酬改定における「小児入院医療管理料と新生児入院医療管理加算」の影響. 日本医事新報 4254: 59-64, 2005
7. 高橋 豊、羽田美保、米川元晴、田端祐一、鹿野高明、沢田博行、遠藤理香、石黒信久：ウイルス性気道感染症の病体解析とその後の喘息発症予測因子解明に関する研究. 環境保全機構委託事業「乳幼児を対象とした診査・介入による事業展開の重点化に関する研究報告書」2005 年度 森川昭廣編: 28-39
8. 高橋 豊、羽田美保、米川元晴、田端祐一、鹿野高明：RS ウイルス感染症により入院した児のその後の喘鳴性疾患罹患とその危険因子に関する検討. 日児誌 110(5), 2006 印刷中
9. 高橋 豊、羽田美保、米川元晴、田端祐一、鹿野高明、海老原敬、遠藤理香、石黒信久、菊田英明：小児 human metapneumovirus および respiratory syncytial virus 感染症の臨床像の比較. 47(6), 2006 印刷中
10. 田端祐一、羽田美保、米川元晴、鹿野高明、高橋 豊：夜尿、易疲労、頭痛を契機に診断した Gitelman 症候群の一例. KKR 札幌医療センター医学雑誌 3, 2006 印刷中

## 学会発表

## 全国学会

1. 高橋 豊、渡辺 徹、森 俊彦、我妻義則、平野至規、有賀 正、堤 裕幸、崎山幸雄：北海道内小児喘息患者に対する第 2 回アンケート調査 1、01 年と 04 年調査における治療内容と患児の QOL の比較. 第 17 回アレルギー学会春季臨床大会、岡山市、2005.6.2-4
2. 渡辺 徹、高橋 豊、森 俊彦、我妻義則、平野至規、有賀 正、堤 裕幸、崎山幸雄：北海道内小児喘息患者に対する第 2 回アンケート調査 2、01 年と 04 年年調査における

- 保護者の QOL の比較. 第 17 回アレルギー学会春季臨床大会、岡山市、2005.6.2-4
3. 我妻義則、梅津愛子、木村健修、島野由美、高橋 豊、山中 樹、渡辺一彦、渡辺 徹：  
小児気管支喘息におけるプロピオン酸フルチカゾン吸入薬の使用による身長に及ぼす  
影響についての検討. 第 42 回小児アレルギー学会、福井市、2005.11.19-20
  4. 高橋 豊、羽田美保、田端祐一、米川元晴、鹿野高明：Respiratory syncytial virus 感  
染症により入院した児のその後の喘鳴性疾患罹患とその危険因子に関する検討. 第 42  
回小児アレルギー学会、福井市、2005.11.19-20

#### 地方学会

1. 佐藤宏紀、川原朋乃、藤原ふみえ、鹿野高明、高橋 豊：反復性耳下腺炎のフォロー中  
に診断されたシェーグレン症候群の 1 例. 札幌市小児科医会、2005.3.1
2. 川原朋乃、佐藤宏紀、藤原ふみえ、鹿野高明、高橋 豊：フェノバルビタールによる  
drug induced hypersensitivity syndrome(DIHS)の 1 歳女児例. 豊平医師会症例検討会、  
2005.2.28
3. 高橋 豊：シンポジウム「感染と各科アレルギー性疾患-1.ウイルス感染と小児喘息」.  
第 9 回北海道アレルギー研究会、札幌市、2005.5.14
4. 鹿野高明、佐藤宏紀、川原朋乃、藤原ふみえ、高橋 豊：当科入院症例におけるブドウ  
球菌性熱傷様皮膚症候群の検討. 札幌市小児科医会、2005.3.1
5. 鹿野高明、羽田美保、田端祐一、米川元晴、高橋 豊：アレルギー性紫斑病入院症例に  
ついての臨床的検討. 第 3 回豊平河畔小児科合同症例検討会、札幌市、2005.11.10
6. 田端祐一、羽田美保、米川元晴、鹿野高明、高橋 豊：夜尿、易疲労、頭痛を契機に診  
断した Gitelman 症候群の一例. 第 264 回日本小児科学会北海道地方会、札幌市、  
2005.11.27

#### 講演

1. 高橋 豊：小児喘息の診断と治療—特に感染との関わりを中心に—. 苫小牧小児科医会、  
苫小牧市、2005.3.9
2. 高橋 豊：小児喘息の診断と治療. 那覇市病院小児科医会、那覇市、2005.7.8
3. 高橋 豊：子どもの気管支喘息～最新の治療と生活管理～. 第 184 回家庭医学講座、札  
幌市、2005.10.1

## 天使病院

### 所属メンバー

- ・ 古賀康嗣 (部長、昭和 54 年卒)
- ・ 外木秀文 (昭和 57 年卒)
- ・ 高橋伸浩 (NICU 科長、昭和 62 年卒)
- ・ 奥原宏治 (平成 4 年卒)
- ・ 中本 哲 (平成 11 年卒)
- ・ 渡辺麻衣子 (平成 12 年卒、平成 17 年 4 月まで)
- ・ 城和歌子 (平成 11 年卒、平成 17 年 5 月～)

### 専門外来

心臓外来 (×2/月)

神経外来 (×2/月)

新生児 (未熟児) フォローアップ外来 (×1/週)

遺伝外来 (×1/週)

病院全体の医師数	46 人
小児科医師数	6 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	260 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	32 床
NICU病床数	12 床
新生児病床数(NICUを除く)	9 床
NICU としての認定	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">あり</span> 、なし
平均小児科外来数	83.4 人/日
平均時間外外来数	4 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,322 人/年
年間のべ入院患者数	8,513 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	344 人/年
年間分娩数	794 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	107 人/年 (NICU入院 205 人中)
極低出生体重児(1,500g未満)数	29 人/年 ( " )
年間呼吸管理患者数	39 人/年

## 発表論文の詳細

1. Miyake N, Visser R, Kinoshita A, Yoshiura K, Niikawa N, Kondoh T, Matsumoto N, Harada N, Okamoto N, Sonoda T, Naritomi K, Kaname T, Chinen Y, Tonoki H and Kurasawa K: Four novel NIPBL mutations in Japanese patients with Cornelia de Lange syndrome. *Am J Med Genet A* 135: 103-105, 2005
2. Nagai T, Obata K, Tonoki H, Temma S, Murakami N, Katada Y, Yoshino A, Sakazume S, Takahashi T, Sakuta R and Niikawa N: Cause of sudden, unexpected death of Prader-Willi syndrome patients with or without growth hormone treatment. *Am J Med Genet A* 136: 45-48, 2005
3. Miyake N, Shimokawa O, Harada N, Sosonkina N, Okubo A, Kawara H, Okamoto N, Ohashi H, Kurosawa K, Naritomi K, Kawame T, Nagai T, Shotelersuk V, Hou JW, Fukushima Y, Kondoh Y, Matsumoto T, Shinoki T, Kato M, Tonoki H, Nomura M, Yoshiura KI, Kishino T, Ohta T, Niikawa N and Matsumoto N: No detectable genomic aberrations by BAC array CGH in Kabuki make-up syndrome patients. *Am J Med Genet A* 140A: 291-293, 2006
4. Ichikawa M, Okajima M, Wada T, Gokan Y, Shimakage H, Tonoki H and Saitoh S: Non-chromosome 15 marker chromosome in a Prader-Willi syndrome patient with uniparental disomy. *Pediatr Internatl* 48: 1-2, 2006
5. 城和歌子、中本 哲、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、窪田 満：遅発型グルタル酸尿症 2 型の 1 例－タンデム質量分析計を用いた新生児マススクリーニングの有用性－. *日本マス・スクリーニング学会雑誌*, 2006 印刷中
6. 渡辺麻衣子、小西祥平、金田 眞、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、山崎泰弘、小林正明：化膿性股関節炎の 2 例. *臨床小児医学*, 2006 印刷中
7. 外木秀文：体細胞遺伝病. *日本臨床* 63,supple12: 81-86, 2005
8. 奥原宏治：混合型性腺形成不全. *成長曲線は語る* (藤枝憲二編) 診断と治療社: 154-155, 2005
9. 奥原宏治：XY 女性. *成長曲線は語る* (藤枝憲二編) 診断と治療社: 158-159, 2005

## 学会発表

## 全国学会

1. 渡辺麻衣子、小西祥平、金田 眞、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、山崎泰弘、小林正明：化膿性股関節炎の 2 例. 第 57 回北日本小児科学会、福島市、2005.9.17
2. 小西祥平、渡辺麻衣子、金田 眞、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、山崎泰弘、小林正明：頸部リンパ節腫大を誘因として発症した環軸椎回旋位固定の 3 例. 第 57 回北日本小児科学会、福島市、2005.9.17
3. 外木秀文：先天性白内障、聴力障害、特異顔貌、口蓋裂、発達遅滞などの所見を有する 1 乳児. 第 28 回日本小児遺伝学会・第 5 回臨床遺伝合同学術集会、倉敷市、2005.9.22

4. 城和歌子、中本 哲、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、阿部 敦、野町祥介、田上泰子、花井潤師、福士 勝、藤田晃三、窪田 満：タンデム質量分析計により診断されたグルタン酸尿症 2 型の 1 例。日本マス・スクリーニング学会、久留米市、2005.10.7-8

#### 地方学会

1. 中本 哲、城和歌子、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、渡利道子：Beckwith-Wiedemann 症候群と診断された 2 例についての検討。第 8 回北海道出生前診断研究会、札幌市、2005.11
2. 城和歌子、中本 哲、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、阿部 敦、野町祥介、田上泰子、花井潤師、福士 勝、藤田晃三、窪田 満：タンデムマス分析計による新生児マス・スクリーニングの効果；グルタン酸尿症 2 型の症例を経験して。第 8 回北海道出生前診断研究会、札幌市、2005.11

## 北海道社会保険病院

### 所属メンバー

- ・ 沢田博行（主任部長、昭和 51 年卒）
- ・ 中山承代（部長、昭和 56 年卒）
- ・ 古山秀人（医長、平成 4 年卒）
- ・ 木田和宏（医員、平成 10 年卒、平成 17 年 10 月まで）
- ・ 岡嶋真紀（医員、常勤嘱託医、平成 7 年卒）
- ・ 岡田善郎（医員、平成 10 年卒、平成 18 年 1 月から）

### 専門外来

発達フォローアップ外来（×2/週）

神経外来（×1/週）

心臓外来（×4/週）

免疫・アレルギー外来（×1/週）

腎臓外来（×1/月）

平成 17 年 1 月～平成 17 年 12 月のデータ

病院全体の医師数	47 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	350 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	27 床
NICU病床数	3 床
新生児病床数(NICUを除く)	床

NICU としての認定 あり、なし (平成 18 年 3 月から)

平均小児科外来数	88.9 人/日
平均時間外外来数	6.4 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,745 人/年
年間のべ入院患者数	11,541 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	600 人/年

年間分娩数	465 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	96 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	12 人/年
年間呼吸管理患者数	15 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 手稲溪仁会病院

### 所属メンバー

- ・ 崎山幸雄 (昭和 42 年卒)
- ・ 渡辺 徹 (昭和 49 年卒)
- ・ 楠 幸博 (昭和 56 年卒)
- ・ 衣川佳数 (昭和 58 年卒)
- ・ 武田宏一郎 (昭和 62 年卒)
- ・ 佐々木康 (平成 4 年卒)
- ・ 武井黄太 (平成 11 年卒)
- ・ 西間木敦子 (平成 12 年卒、平成 17 年 11 月まで)

### 専門外来

- 神経外来 (白石秀明、×4/月)
- 免疫・アレルギー外来 (×8/月)
- 喘息・アレルギー外来 (×8/月)
- 腎臓・慢性外来 (×8/月)
- 内分泌外来 (×1/月)
- 心臓外来 (×16/月)

---

病院全体の医師数	196 人
小児科医師数	10 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	524 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	29 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	103 人/日
平均時間外外来数	4 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,606 人/年
年間のべ入院患者数	10,936 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	400 人/年
年間分娩数	586 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	88 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	1 人/年
年間呼吸管理患者数	21 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

1. 伊藤智城他：中枢神経病変を合併した X-CGD の成人例．日本小児科学会北海道地方会第 264 回例会、札幌市、2005.11.27
2. 中島育太郎他：急性好酸球性肺炎の一例．日本小児科学会北海道地方会第 265 回例会、札幌市、2006.2.26
3. 武井黄太他：低プロトロンビン性ループスアンチコアグランド症候群の疑われた 1 例．北海道小児リウマチ性疾患研究会、2006.2.25

## 国立病院機構 北海道がんセンター

### 所属メンバー

- ・飯塚 進（昭和 51 年卒）
- ・長 祐子（平成 2 年卒）
- ・田中洋充（平成 13 年卒）

### 専門外来

血液・悪性腫瘍外来

慢性疾患外来

内分泌外来

心臓外来

病院全体の医師数	90 人
小児科医師数	3 人 (うち非常勤 1 人)
病院全体の病床数	511 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	16 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">なし</span>
平均小児科外来数	18 人/日
平均時間外外来数	0.5 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	200 人/年
年間のべ入院患者数	7,200 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	10 人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	1 人/年

## 発表論文の詳細

1. 花井潤師、阿部敦子、田上泰子、桶川なをみ、太田紀之、福士 勝、藤田晃三、西 基、飯塚 進、内藤春彦：札幌市における神経芽細胞腫スクリーニング結果（2004 年度）．札幌市衛生研究所年報（0917-0294）32：40-44, 2005.11
2. 柴崎 晋、内藤春彦、濱田朋倫、篠原俊樹、長 祐子、山城勝重：c-kit 陰性、CD34 陰性の結腸 GIST の 1 例．小児がん（0389-4525）42(4)：893, 2005.12
3. 菅原和華、春田雅之、渡邊直樹、金子安比古、恒松由記子、菊田 敦、駒田美弘、堀越泰雄、子川和宏、稲田浩子、加藤剛二、飯塚 進、遠藤幹也：肝芽腫における RASSF1A プロモーター領域メチル化と  $\beta$  カテニン変異、染色体異常、臨床所見との関係．日本小児血液学会雑誌(0913-8706)19(5)：316, 2005.10
4. 長 祐子：【小児血液疾患の合併症とその対策】白血病治療による合併症と対策 悪心・嘔吐、口内炎の対策．小児内科(0385-6305)37(9)：1209-1214, 2005.9
5. 井手口裕、加藤純子、高尾マユミ、田口文博、飯塚 進、高山信之、川島博信、小野順子：遺伝性球状赤血球症に発見された新しい band3 遺伝子変異．日本血液学会・日本臨床血液学会総会プログラム・抄録集 67 回 47 回号：815, 2005.9

## 学会発表

## 全国学会

1. 長 祐子、田中洋充、飯塚 進：当施設で経験した小児消化管粘膜下腫瘍の 4 例．第 21 回日本小児がん学会総会、宇都宮市、2005.11.25
2. 長 祐子、田中洋充、飯塚 進：過去 20 年間に当院で治療を行った小児ウィルムス腫瘍．第 3 回日本ウィルムス腫瘍スタディ研究会、東京都、2006.2.18

## 地方学会

1. 飯塚 進、田中洋充、長 祐子：ALL 治療後出現した下肢の知覚異常と脱力．第 12 回北海道小児血液セミナー、札幌市、2005.9.9
2. 長 祐子、田中洋充、飯塚 進：骨原発悪性腫瘍との鑑別が問題となった左鎖骨骨髄炎の一乳児例．第 3 回豊平河畔小児科合同症例検討会、札幌市、2005.11.10
3. 田中洋充、長 祐子、飯塚 進：繰り返す意識消失発作と凝固異常で発症した ALL．第 22 回北海道小児血液研究会、札幌市、2005.11.19
4. 田中洋充、長 祐子、飯塚 進：多彩な症状を呈し診断確定までに時間を要した ALCL の一例．第 13 回北海道小児血液セミナー、札幌市、2006.2.3
5. 長 祐子、田中洋充、飯塚 進：治療に苦慮している悪性褐色細胞腫の一例．第 31 回北海道小児がん研究会、札幌市、2006.3.10

## JR 札幌鉄道病院

### 所属メンバー

- ・ 中山雅之（主任医長、昭和 48 年卒）
- ・ 成田光生（医長、昭和 57 年卒）

### 専門外来

食物アレルギー外来

育児相談

神経外来

病院全体の医師数	32 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	312 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	12 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床

NICU としての認定                      あり、なし

平均小児科外来数	15 人/日
平均時間外外来数	0.2 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	308 人/年
年間のべ入院患者数	900 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	30 人/年

年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

## 発表論文の詳細

1. Narita M, Tanaka H, Togashi T and Abe S: Cytokines involved in CNS manifestations caused by *Mycoplasma pneumoniae*. *Pediatr Neurol* 33: 105-109, 2005
2. 成田光生:マクロライド耐性肺炎マイコプラズマの性状と、その臨床における問題点。「百日咳菌、ジフテリア菌、マイコプラズマ等の臨床分離菌の収集と分子疫学的解析に関する研究」厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）平成 16 年度総括・分担研究報告書：55-63, 2005
3. 成田光生：小児期マイコプラズマ感染症診断におけるマイコプラズマ特異的 IgG,IgA,IgM 抗体検出 enzyme-linked immunosorbent assay キットの有用性に関する検討. *感染症学雑誌* 79: 457-463, 2005
4. 成田光生：マイコプラズマ肺炎－診断と耐性菌に関する話題を中心に－. *日本胸部臨床* 64: 778-786, 2005
5. 成田光生：「せき」のある子供の急性感染症. *日本医事新報* 4255 綴じ込み企画, 2005
6. 成田光生：新しい臨床ウイルス学、ムンプス. *小児科臨床* 68: 2213-2217, 2005
7. 田中裕士、成田光生：気道系、呼吸器系のマイコプラズマの現況. *感染と抗菌薬* 8: 386-392, 2005
8. 田中裕士、成田光生、高橋弘毅：重症マイコプラズマ肺炎. *クリニカ* 32: 333-338, 2005
9. 越田理恵、川島ひろ子、中村英夫、渡部礼二、西田直巳、成田光生、谷内江昭宏：大学での成人麻疹集団感染と緊急ワクチン接種による流行阻止. *日小児会誌* 109: 351-358, 2005

## 学会発表

## 全国学会

1. 前田 整、氏家みどり、成田光生、中山雅之：小児科領域における心理的援助の取り組み. 第 59 回日本交通医学会、大阪市、2005.6.4
2. 出村 守、穴倉勉彌、堀野清孝、長野省五、中山雅之：乳幼児・児童が関わった虐待報道についての親の意識調査. 第 11 回日本保育園保健学会、2005.10.15
3. 成田光生：Mycoplasma pneumoniae ELISA medac の有用性に関する検討. 第 32 回日本マイコプラズマ学会学術集会、久留米市、2005.5
4. 成田光生：マイコプラズマ肺炎における ‘in vitro-in vivo paradox’. 第 32 回日本マイコプラズマ学会学術集会、シンポジウム、久留米市、2005.5
5. 成田光生：Mycoplasma pneumoniae ELISA medac の有用性の検討. 第 37 回日本小児感染症学会総会、津市、2005.11

## 地方学会

1. 前田 整、氏家みどり、成田光生、中山雅之：アスペルガー症候群と診断された児童ケースへの関わりについて. 第 85 回日本交通医学会北海道地方会、2005.9.3

2. 久保敬補、松本道明、成田光生、中山雅之：ヒスタミン遊離試験の検討．第 85 回日本交通医学会北海道地方会、2005.9.3
3. 中山雅之、成田光生、久保敬補、：食物アレルギーに対するヒスタミン遊離試験の応用 1 白樺アレルギーとフルーツアレルギー．第 31 回札幌市医師会医学会、2006.2.19
4. 出村 守、穴倉廼彌、堀野清孝、長野省五、中山雅之：乳幼児・児童が関わった虐待報道についての親の意識調査－札幌市と他都市の比較－．第 31 回札幌市医師会医学会、2006.2.19
5. 成田光生：マイコプラズマ感染症.診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題．八戸小児科医会研究会、特別講演、八戸市、2005.2
6. 成田光生：マイコプラズマ感染症.診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題．第 40 回埼玉県小児感染免疫懇話会、特別講演、さいたま市、2005.7
7. 成田光生、中山雅之：当院において経験されたマクロライド耐性マイコプラズマ感染症の 3 例．第 85 回日本交通医学会北海道地方会、札幌市、2005.9
8. 成田光生：マイコプラズマ感染症.診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題．所沢小児科医会第 227 回例会、特別講演、所沢市、2005.10
9. 成田光生：マイコプラズマ感染症.診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題．第 84 回札幌市耳鼻咽喉科医会学術研修会、特別講演、札幌市、2005.11

## 北海道医療大学病院

所属メンバー

- ・寺井 格（昭和 60 年卒）

専門外来

病院全体の医師数	9 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	24 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	0 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	20.5 人/日
平均時間外外来数	0 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	12 人/年
年間のべ入院患者数	47 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 愛育病院

所属メンバー

- ・加藤幹子（昭和 60 年卒）

専門外来

---

病院全体の医師数	14 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	180 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	2 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	12 人/日
平均時間外外来数	0~1 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	98 人/年
年間のべ入院患者数	260 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	5 人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 札幌北楡病院

### 所属メンバー

- ・安田一恵 (小児科部長、昭和 60 年卒)
- ・越後谷雅代 (小児科医員、非常勤、平成 6 年卒)
- ・小林邦彦 (小児科顧問、昭和 41 年卒)

### 専門外来

---

病院全体の医師数	48 人
小児科医師数	3 人 (うち非常勤 1 人、顧問 1 人)

病院全体の病床数	231 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	0~5 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床

NICU としての認定                      あり、なし

平均小児科外来数	16 人/日
平均時間外外来数	0 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	80 人/年
年間のべ入院患者数	450 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	0 人/年

年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

  全国学会

なし

  地方学会

なし

## 江別市立病院

### 所属メンバー

- ・ 梶井直文（副院長、昭和 51 年卒）
- ・ 信太 知（主任部長、昭和 59 年卒）
- ・ 板倉 治（部長、昭和 61 年卒）
- ・ 鈴木雄治（部長、平成 3 年卒）

### 専門外来

神経・発達外来（×1/週）

心臓外来（×1/週）

アレルギー・肥満・夜尿外来（×1/週）

腎臓外来（×1/月）

血液外来（×1/2 ヶ月）

神経・脳波外来（×1/週）

---

病院全体の医師数	46 人
小児科医師数	4 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	337 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	20 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	2 床

NICU としての認定            あり、なし

平均小児科外来数	82.4 人/日
平均時間外外来数	3 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,022 人/年
年間のべ入院患者数	7,702 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	77 人/年

年間分娩数	361 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	29 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	1 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 市立美唄病院

### 所属メンバー

- ・永田 康（副院長 昭和 50 年卒）
- ・小川泰弘（主任医長 昭和 61 年卒）

### 専門外来

心臓外来（×1/月）

内分泌外来（×1/月）

---

病院全体の医師数	11 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	195 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	19 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	79.8 人/日
平均時間外外来数	4.63 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	86 人/年
年間のべ入院患者数	532 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	36 人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 美唄労災病院

### 所属メンバー

- ・ 秋野信子（昭和 43 年卒）

### 専門外来

心臓外来（×1/月）

神経外来（×1/6 ヶ月）

---

病院全体の医師数	31 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	350 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	2 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	20~30 人/日
平均時間外外来数	0~1 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	165 人/年
年間のべ入院患者数	990 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	10~20 人/年
年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	1 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

  全国学会

なし

  地方学会

なし

## 市立三笠総合病院

所属メンバー

- ・ 三山隆司（部長、昭和 45 年卒）

専門外来

病院全体の医師数	17 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	279 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	4 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	1 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	19.5 人/日
平均時間外外来数	人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	97 人/年
年間のべ入院患者数	288 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年
年間分娩数	17 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 栗山赤十字病院

所属メンバー

- ・越 和子（昭和 50 年卒）

専門外来

病院全体の医師数	13 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	161 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	5 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	26.4 人/日
平均時間外外来数	2.9 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	197 人/年
年間のべ入院患者数	1,008 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	52 人/年
年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 市立小樽病院

### 所属メンバー

- ・ 柴田睦郎（診療部長、昭和 55 年卒）
- ・ 岩井 崇（医長、昭和 58 年卒）

### 専門外来

心臓外来（村上智明×1/月）

神経外来（斉藤伸治×1/2 ヶ月）

---

病院全体の医師数	35 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	540 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	23 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	6 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	34 人/日
平均時間外外来数	0.6 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	205 人/年
年間のべ入院患者数	988 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年
年間分娩数	105 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	4 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

## 発表論文の詳細

1. 柴田睦郎：信仰はあるのですか？：ケアの質を高める在宅でのこの一言！．日本プライマリ・ケア学会編、日本医事新報社：182-183, 2006

## 学会発表

## 全国学会

1. 柴田睦郎：地域における病院感染予防情報共有システム構築と ICD の役割についての検討．第 65 回日本公衆衛生学会、札幌市、2005.9.15
2. 柴田睦郎：思春期早発症治療後に発症した粟粒結核の 1 女児例．第 36 回日本小児呼吸器疾患学会、新潟市、2005.11.5

## 地方学会

1. 柴田睦郎：2030 年への羅針盤－人口減少時代の保健医療モデルを探る－．第 2 回ヘルスリサーチワークショップ、東京都、2006.1.28-29

## 俱知安厚生病院

### 所属メンバー

- ・奥野章裕（主任部長、昭和 55 年卒）
- ・森田啓介（部長、平成元年卒）

### 専門外来

心臓外来（×1/月）

---

病院全体の医師数	27 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	392 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	16 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	50 人/日
平均時間外外来数	2.0 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	640 人/年
年間のべ入院患者数	2,788 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	681 人/年
年間分娩数	364 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	25 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

  全国学会

なし

  地方学会

なし

## 岩内協会病院

### 所属メンバー

- ・ 浜崎和朗（平成 5 年卒）

### 専門外来

免疫、アレルギー外来（川村信明×1/1-2 ヶ月）

神経外来（白石秀明×1/3 ヶ月）

---

病院全体の医師数	11 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	240 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	6 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	39.9 人/日
平均時間外外来数	1 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	152 人/年
年間のべ入院患者数	672 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	42 人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 市立千歳市民病院

### 所属メンバー

- ・ 栃丸博幸（昭和 51 年卒）
- ・ 今村啓作（昭和 63 年卒）
- ・ 佐藤重矢子（平成 8 年卒）
- ・ 築詰紀子（平成 10 年卒）

### 専門外来

心外来（×2/月）

神経外来（×2/月）

内分泌外来（×2/月）

腎・アレルギー外来（栃丸博幸）

---

病院全体の医師数	32 人
小児科医師数	4 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	190 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	18 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	2 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	110 人/日
平均時間外外来数	20 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,165 人/年
年間のべ入院患者数	4,394 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	216 人/年
年間分娩数	246 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	21 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

## 発表論文の詳細

1. 小林由典、山崎 茂、武井黄太、楠 幸博、栃丸博幸、渡辺 徹、奥野章裕、崎山幸雄：  
下痢を伴わない溶血性尿毒症症候群を反復した 4 歳男児の 1 例. 日本小児腎臓病学会雑誌 18(2): 141-145, 2005

## 学会発表

全国学会

なし

## 地方学会

1. 佐藤亜矢子、今村啓作、築詰紀子、栃丸博幸：一過性聴力障害を合併した川崎病の一例。  
第 6 回北海道川崎病研究会、2005.9.10
2. 佐藤亜矢子、今村啓作、築詰紀子、栃丸博幸：AFBN から腎膿瘍へ移行した一例。第  
14 回北海道小児腎臓病研究会、2005.10.20

## 恵み野病院

### 所属メンバー

- ・ 畑江芳郎（小児科部長、昭和 44 年卒）
- ・ 日野和雄（顧問、第 1.3 金曜午後、昭和 33 年卒）

### 専門外来

---

病院全体の医師数	32 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 1 人)
病院全体の病床数	200 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	0 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	13 人/日
平均時間外外来数	0 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	86 人/年
年間のべ入院患者数	453 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	0 人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 王子総合病院

### 所属メンバー

- ・内藤広行（主任科長、昭和 57 年卒）
- ・小林徳雄（科長、昭和 61 年卒）
- ・鈴木秀久（科長、平成 7 年卒）
- ・鈴木大介（科長、平成 12 年卒、平成 17 年 5 月まで）
- ・里見達郎（科長、平成 11 年卒）
- ・岡本孝之（科長、平成 15 年卒、平成 17 年 6 月から）

### 専門外来

- 心臓外来（村上智明、×1/月）
- 神経外来（小林徳雄、×1/週）
- 腎臓外来（佐々木聡、×1/月）
- 内分泌外来（田島敏広、×1/月）

---

病院全体の医師数	56 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	440 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	23 床
NICU病床数	5 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	81.8 人/日
平均時間外外来数	4.9 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,009 人/年
年間のべ入院患者数	8,541 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	238 人/年
年間分娩数	591 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	69 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	8 人/年
年間呼吸管理患者数	16 人/年

発表論文の詳細

1. Okamoto T, Kobayashi N, Naitoh H and Tajima T: A Novel V2 Vasopressin Receptor Mutation with X-Linked Nephrogenic Diabetes Insipidus. Clin Pediatr Endocrinol 15(1): 41-43, 2006

学会発表

全国学会

なし

地方学会

1. 鈴木大介他：ベータチェット病が疑われコルヒチンが著効した一例. 日本小児科学会北海道地方会第 263 回例会、旭川市、2005.7.3
2. 岡本孝之、田島敏広：AVPR2 に新たな遺伝子変異を認めた腎性尿崩症の 1 症例. 第 27 回北海道小児内分泌研究会、2006.1.28

## 日鋼記念病院

### 所属メンバー

- ・岩田正道 (主任科長、昭和 62 年卒)
- ・小野 暁 (科長、昭和 63 年卒)
- ・小杉山清隆 (平成 7 年卒)
- ・大島淳二郎 (平成 11 年卒)
- ・内田麻子 (平成 14 年卒、平成 17 年 8 月まで)
- ・岡田善郎 (平成 10 年卒、平成 17 年 10～12 月まで)
- ・大塚耕右 (平成 12 年卒、平成 18 年 1 月～)
- ・伊丹儀友 (腎センター所長、昭和 52 年卒)

### 専門外来

心臓外来 (×1/月)

神経外来 (×2/月)

血液外来 (×1/2 ヶ月)

内分泌外来 (×1/3 ヶ月)

遺伝外来 (×1/3 ヶ月)

発達外来 (×7/月)

---

病院全体の医師数	107 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	485 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	20 床
NICU病床数	3 床
新生児病床数(NICUを除く)	5 床
NICU としての認定	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">あり</span> 、なし
平均小児科外来数	55 人/日
平均時間外外来数	11 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	850 人/年
年間のべ入院患者数	9,000 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	300 人/年
年間分娩数	400 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	70 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	11 人/年
年間呼吸管理患者数	20 人/年

発表論文の詳細

1. 塩野展子、伊東広臨、小野 暁、古賀康嗣：好酸球増多と肝組織への好酸球浸潤を認めた原発性硬化性胆管炎の 1 例. 小児感染免疫 17: 99-104, 2005

学会発表

全国学会

なし

地方学会

1. 内田麻子他：Beckwith-Wiedemann 症候群の一例. 第 263 回日本小児科学会北海道地方会例会、旭川市、2005.7.3
2. 小杉山清隆他：Weber-Christian 病の一例. 第 265 回日本小児科学会北海道地方会例会、札幌市、2006.2.26

## 伊達赤十字病院

### 所属メンバー

- ・ 田原泰夫 (医長、昭和 59 年卒)
- ・ 小野寺隆 (医長、昭和 60 年卒)

### 専門外来

神経外来 (×1/月)

---

病院全体の医師数	36 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	360 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	13 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	50.3 人/日
平均時間外外来数	6.6 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	651 人/年
年間のべ入院患者数	3,008 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	115 人/年
年間分娩数	256 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	19 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	1 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 市立旭川病院

### 所属メンバー

- ・小西貴幸 (昭和 54 年卒)
- ・佐竹 明 (昭和 62 年卒)
- ・中嶋雅秀 (平成 8 年卒)
- ・柳生一自 (平成 12 年卒)
- ・竹崎俊一郎 (平成 13 年卒、平成 17 年 5 月から)

### 専門外来

心臓外来 (小西)

川崎病外来 (小西)

腎臓外来 (長野)

血液外来 (中嶋)

神経外来 (佐竹)

病院全体の医師数	90 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	566 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	23 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	2 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	70-90 人/日
平均時間外外来数	5-10 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,000 人/年
年間のべ入院患者数	6,000 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	300-400 人/年
年間分娩数	250-300 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	30-40 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	2-3 人/年
年間呼吸管理患者数	2-3 人/年

## 発表論文の詳細

1. 内田麻子、佐藤重矢子、三野絵美、佐竹 明、小西貴幸：発症時年齢 4 歳以上の川崎病の検討. 旭市病誌 36: 1-4, 2005
2. 大場淳一、青木秀俊、滝上 剛、小西貴幸、梶野真弓：総肺静脈還流異常症に合併した先天性肺リンパ管拡張症の 1 例. 日本小児循環器学会雑誌 21(1): 24-27, 2005

## 学会発表

全国学会

なし

## 地方学会

1. 竹崎俊一郎、柳生一自、山澤弘州、中嶋雅秀、佐竹 明、小西貴幸：症状発現から 2 時間半で心肺停止に至った遅発性横隔膜ヘルニアの一例. 日本小児科学会北海道地方会第 263 回例会、旭川市、2005.7.3
2. 竹崎俊一郎、柳生一自、中嶋雅秀、佐竹 明、小西貴幸：SIADH を合併した突発性発疹症の一例. 日本小児科学会北海道地方会第 264 回例会、札幌市、2005.11.27
3. 中嶋雅秀、竹崎俊一郎、柳生一自、佐竹 明、小西貴幸：川崎病ガンマグロブリン療法不応例の検討. 日本小児科学会北海道地方会第 265 回例会、札幌市、2006.2.26
4. 柳生一自、竹崎俊一郎、中嶋雅秀、佐竹 明、小西貴幸：関節症状を呈した川崎病症例の検討. 第 26 回道北小児科懇話会

## 北見赤十字病院

### 所属メンバー

- ・三河 誠（昭和 50 年卒）
- ・小林一郎（昭和 59 年卒）
- ・那須 敬（平成 5 年卒）
- ・斉田吉伯（平成 5 年卒）
- ・高橋有美（平成 13 年卒）
- ・古瀬優太（平成 15 年卒）

### 専門外来

未熟児外来

発達外来

アレルギー外来

内分泌外来

心臓外来

ことばの外来

腎臓外来

遺伝外来（×1/年）

神経外来

血液外来

---

病院全体の医師数	103 人
小児科医師数	6 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	695 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	33 床
NICU病床数	6 床
新生児病床数(NICUを除く)	18 床
NICU としての認定	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">あり</span> 、なし
平均小児科外来数	118 人/日
平均時間外外来数	16.1 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,674 人/年
年間のべ入院患者数	15,522 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	500 人/年
年間分娩数	450 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	60 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	14 人/年
年間呼吸管理患者数	25 人/年

## 発表論文の詳細

1. Tanaka H, Suzuki K, Nakahata T, Kobayashi I, Kubota M and Ito E: Immune dysregulation, polyendocrinopathy, enteropathy, X-linked syndrome without extraintestinal symptoms in a Japanese infant with a novel mutation of *FOXP3* gene. *Acta Paediatr* 93: 142-143, 2004
2. Nieves DS, Phipps RP, Pollock SJ, Ochs HD, Zhu Q, Scott GA, Ryan C, Kobayashi I, Rossi TM and Goldsmith LA: Dermatologic and Immunologic Findings in the Immune Dysregulation, Polyendocrinopathy, Enteropathy, X-linked Syndrome. *Arch Dermatol* 140: 466-472, 2004
3. Hirai A, Tada M, Furuuchi K, Ishikawa S, Makiyama K, Hamada J, Okada F, Kobayashi I, Fukuda H and Moriuchi T: Expression of AIE-75 PDZ-domain protein induces G(2)/M cell cycle arrest in human colorectal adenocarcinoma SW480 cells. *Cancer Lett* 10(211): 209-18, 2004
4. Tanaka H, Tsugawa K, Kudo M, Sugimoto K, Kobayashi I and Ito E: Low-dose cyclosporine A in a patient with X-linked immune dysregulation, polyendocrinopathy, and enteropathy. *Eur J Paediatr* 164: 779-780, 2005
5. 大倉有加、古瀬優太、斉田吉伯、古山秀人、小林一郎、三河 誠、石川信義、梶野浩樹：目で見る小児科；CantreII症候群の1例。小児科 46: 1387-1388, 2005
6. Kobayashi I, Kawamura N, Okano M, Sageshima S, Nakayama T, Ohyu J and Kobayashi K: Thrombocytopenia in juvenile dermatomyositis, *Scand. J Rheumatol* 35: 79-80, 2006

## 学会発表

## 全国学会

1. 小林一郎、レザ シアリ、戸板成昭、波多野典一、川村信明、岡野素彦、小林邦彦、林良夫、有賀 正：小児シェーグレン症候群における抗 $\alpha$ -fodrin 抗体のエピトープ解析—1次性と2次性の比較と epitope spreading. 第14回日本シェーグレン症候群研究会、千葉市、2005.9.16-17
2. 小林一郎、レザ シアリ、戸板成昭、波多野典一、川村信明、岡野素彦、小林邦彦、林良夫、有賀 正：小児シェーグレン症候群における抗 $\alpha$ -fodrin 抗体のエピトープ解析。第15回小児リウマチ学会、東京都、2005.10.8-9
3. 大倉有加、古山香里、レザ シアリ、宮崎雄生、服部芳伸、古瀬優太、古山秀人、石川信義、林 良夫、小林一郎：経過中に抗 $\alpha$ -fodrin 抗体が陽性化した小児多発性硬化症(MS)の1例。第15回小児リウマチ学会、東京都、2005.10.8-9
4. 小林一郎、Reza Shiari、戸板成昭、波多野典一、川村信明、岡野素彦、林 良夫、小林邦彦、有賀 正：小児シェーグレン症候群における抗 $\alpha$ -フオドリン抗体のエピトープ解析。第55回日本アレルギー学会総会、盛岡市、2005.10.20-22

5. 大倉有加、古山香里、レザ シアリ、宮崎雄生、服部芳伸、古瀬優太、古山秀人、石川信義、林 良夫、小林一郎：経過中に抗  $\alpha$ -fodrin 抗体が陽性化した小児多発性硬化症の 1 例。第 55 回日本アレルギー学会総会、盛岡市、2005.10.20-22

#### 地方学会

1. 小林一郎：難治性 SLE 治療の最前線。第 17 回北海道小児リウマチ性疾患研究会、ミニシンポジウム、札幌市、2005.2.26
2. 古瀬優太、高橋有美、那須 敬、斎田吉伯、小林一郎、三河 誠：オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症と慢性肉芽腫症を合併した 1 例。オホーツク臨床免疫懇話会、北見市、2005.7.1
3. 那須 敬、古瀬優太、高橋有美、斎田吉伯、小林一郎、三河 誠：未治療のバセドウ病母体から出生し、生後甲状腺機能亢進から低下へ変化した新生児の 1 例。日本小児科学会北海道地方会第 264 回例会、札幌市、2005.11.27
4. 古瀬優太、高橋有美、斎田吉伯、那須 敬、小林一郎、三河 誠：新生児期に血液透析を施行した 3 例。道北小児科懇話会、旭川市、2005.12.17
5. 高橋有美、古瀬優太、斎田吉伯、那須 敬、小林一郎、三河 誠、外木秀文、福嶋義光：18 トリソミーと類似した 3p 部分モノソミー、7q 部分トリソミーの一例。日本小児科学会北海道地方会第 265 回例会、札幌市、2006.2.26

## 美幌町立国保病院

所属メンバー

- ・ 出張医

専門外来

病院全体の医師数	7 人
小児科医師数	人 (うち非常勤 人)
病院全体の病床数	99 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	10 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	22 人/日
平均時間外外来数	6 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	14 人/年
年間のべ入院患者数	17 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 函館中央病院

### 所属メンバー

- ・ 山田 豊 (副院長、昭和 47 年卒)
- ・ 水上 晋 (科長、昭和 59 年卒)
- ・ 木田 毅 (昭和 60 年卒)
- ・ 大湯淳功 (昭和 63 年卒)
- ・ 佐々木真樹 (平成 2 年卒)
- ・ 盛一享徳 (平成 9 年卒)
- ・ 薮本 元 (平成 15 年卒、平成 17 年 9 月まで)

### 専門外来

神経外来 (×2/週)、予防接種 (×1/週)

心臓外来 (×1/週)

未熟児外来 (×4/週)

腎外来 (中島泰志、×1/3 ヶ月)

血液外来 (飯塚 進、×1/月)

遺伝外来 (福嶋義光、×1~2/年)

---

病院全体の医師数	86 人
小児科医師数	6 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	600 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	30 床
NICU病床数	6 床
新生児病床数(NICUを除く)	19 床
NICU としての認定	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">あり</span> 、なし
平均小児科外来数	71.5 人/日
平均時間外外来数	5.1 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,618 人/年
年間のべ入院患者数	14,165 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	501 人/年
年間分娩数	654 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	129 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	35 人/年
年間呼吸管理患者数	40 人/年

## 発表論文の詳細

1. 大湯淳功、高橋有美、古川卓朗、柳生一自、佐々木真樹、木田 毅、水上 晋、山田 豊：  
遷延した低血糖後に後頭葉に嚢胞性変化をきたした 1 例. 函館中央病院医誌 8.9: 18-21,  
2005
2. 大湯淳功：中枢神経系の検査、頭部 CT. ネオネイタルケア 2006 春期増刊 新生児の検査・基準値マスターブック: 165-168, 2006

## 学会発表

## 全国学会

1. 大湯淳功、木田 毅、山田 豊：低血糖後に頭部 MRI 異常をきたした 2 例. 第 50 回未熟児新生児学会、名古屋市、2005.12.5

## 地方学会

1. 盛一享徳、佐々木真樹、水上 晋、山田 豊：抗生物質が有効な頸部リンパ節炎を繰り返す男児例. 第 44 回青函小児科懇話会、2006.7.2
2. 盛一享徳、佐々木真樹、水上 晋、山田 豊：アデノウイルス 3 型による致死性肺炎の部検例. 函館小児科医会、2006.12.2

## 函館五稜郭病院

### 所属メンバー

- ・ 遠藤満智子 (診療部長、昭和 45 年卒)
- ・ 阿部修司 (小児科科長、平成 3 年卒)
- ・ 藤田祥二 (小児科医長、平成 7 年卒)
- ・ 伊東広臨 (小児科医員、平成 12 年卒、平成 17 年 4 月まで)
- ・ 小林穂高 (小児科医員、平成 12 年卒、平成 17 年 5 月から)
- ・ 大塚耕右 (小児科医員、平成 12 年卒、平成 17 年 12 月まで)
- ・ 江川 潔 (小児科医員、平成 10 年卒、平成 18 年 2 月～)

### 専門外来

内分泌外来 (×2/週)

喘息外来 (×2/週)

血液外来 (×1/月)

神経外来 (×1/月)

腎臓外来 (×2/年)

遺伝外来 (×1/年)

---

病院全体の医師数	77 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	586 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	34 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	5 床
NICU としての認定	あり、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">なし</span>
平均小児科外来数	65 人/日
平均時間外外来数	5 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,248 人/年
年間のべ入院患者数	7,077 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	148 人/年
年間分娩数	478 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	30 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

発表論文の詳細

1. 伊東広臨他：乳児期早期発症の原発性肺高血圧症と思われた 1 例．道南医学会誌 40: 220-222, 2005

学会発表

全国学会

なし

地方学会

1. 遠藤満智子：肥満小児の血糖パターン．第 7 回北海道小児糖尿病研究会、札幌市、2005.5.28
2. 小林穂高：若年性ポリープ 4 例の検討．第 44 回青函小児懇話会、青森市、2005.7.2
3. 阿部修司：2004/2005 年函館地区におけるインフルエンザ流行について．第 58 回道南医学会、函館市、2005.11.20
4. 小林穂高：小児の肥満はやっぱり糖尿病予備軍．第 58 回道南医学会、函館市、2005.11.20

## 帯広協会病院

### 所属メンバー

- ・ 松本憲則（外来診療部長、昭和 55 年卒）
- ・ 青柳勇人（主任医長、平成 3 年卒）
- ・ 岡本孝之（医師、平成 15 年卒、平成 17 年 5 月まで）
- ・ 稲本 潤（医師、平成 13 年卒）
- ・ 秋元琢真（医師、平成 15 年卒）
- ・ 市川瑞穂（医師、平成 12 年卒、平成 17 年 7 月～）

### 専門外来

心臓外来（×1/週）

心エコー外来（×1/週）

発達外来（×1/週）

血液外来（×1/月）

内分泌外来（×1/3 ヶ月）

神経外来（×1/3 ヶ月）

腎外来（×1/3 ヶ月）

---

病院全体の医師数	48 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	360 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	24 床
NICU病床数	3 床
新生児病床数(NICUを除く)	4 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	98.5 人/日
平均時間外外来数	6.8 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,496 人/年
年間のべ入院患者数	12,029 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	370 人/年
年間分娩数	683 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	90 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	8 人/年
年間呼吸管理患者数	15 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

1. 松本憲則、秋元琢真、稲本 潤、市川瑞穂、青柳勇人：当院における RSV 感染症の現状．小児喘息フォーラム 2006 in Sapporo、パネルディスカッション、札幌市、2006.2.18
2. 秋元琢真、稲本 潤、市川瑞穂、青柳勇人、松本憲則：HHV-6 感染に伴う Hemiconvulsion-Hemiplegia-Epilepsy Syndrome と思われる 1 例．第 8 回日本小児神経学会北海道地方会、札幌市、2006.3.11

地方学会

なし

## 帯広厚生病院

### 所属メンバー

- ・ 提嶋俊一（主任部長、昭和 51 年卒）
- ・ 植竹公明（部長、昭和 59 年卒）
- ・ 市川瑞穂（医員、平成 12 年卒、平成 17 年 6 月まで）
- ・ 寺本 忍（医員、平成 13 年卒）
- ・ 小林穂高（医員、平成 12 年卒、平成 17 年 4 月まで）
- ・ 植田佑樹（医員、平成 15 年卒）
- ・ 鈴木大介（医員、平成 12 年卒、平成 17 年 5 月～）
- ・ 中村明枝（医員、平成 14 年卒、平成 17 年 8 月～）

### 専門外来

心臓外来（×1/月）

血液外来（×1/月）

内分泌外来（×1/3 ヶ月）

腎臓外来（×1/3 ヶ月）

遺伝外来（×1/月）

神経外来（×1/週）

平成 16 年度データ

病院全体の医師数	115 人
小児科医師数	6 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	748 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	25 床
NICU病床数	12 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床

NICU としての認定                      あり、なし

平均小児科外来数	125 人/日
平均時間外外来数	13 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,274 人/年
年間のべ入院患者数	12,436 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	436 人/年

年間分娩数	529 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	47 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	15 人/年
年間呼吸管理患者数	16 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 池田町立病院

### 所属メンバー

- ・屋敷憲章 (昭和53年卒)

### 専門外来

平成 16 年度データ

病院全体の医師数	3 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	80 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	0 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床

NICU としての認定            あり、なし

平均小児科外来数	13 人/日
平均時間外外来数	人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	2 人/年
年間のべ入院患者数	4 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年

年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

-

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 釧路赤十字病院

### 所属メンバー

- ・永島哲郎（第 1 小児科部長、昭和 50 年卒）
- ・南雲 淳（第 2 小児科部長、平成元年卒）
- ・水島正人（第 3 小児科部長、平成 4 年卒）
- ・城和歌子（小児科医師、平成 11 年卒、平成 17 年 4 月まで）
- ・伊東広臨（第 1 小児科副部長、平成 12 年卒、平成 17 年 5 月～）
- ・大倉有加（小児科医師、平成 13 年卒）
- ・中村明枝（小児科医師、平成 14 年卒、平成 17 年 7 月まで）
- ・内田麻子（小児科医師、平成 14 年卒、平成 17 年 9 月～）
- ・山崎 茂（小児科医師、平成 15 年卒）

### 専門外来

神経外来（永島哲郎、×1/週）

心臓外来（南雲 淳、×1/週）

内分泌外来（藤枝憲二、×1/3 ヶ月）

血液・悪性腫瘍外来（小林良二、×1/3 ヶ月）

腎臓外来（佐々木聡、×1/3 ヶ月）

染色体外来（福嶋義光、×1/年）

---

病院全体の医師数	55 人
小児科医師数	7 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	489 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	42 床
NICU病床数	9 床
新生児病床数(NICUを除く)	6 床
NICU としての認定	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">あり</span> 、なし
平均小児科外来数	113.8 人/日
平均時間外外来数	2.5 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	2,805 人/年
年間のべ入院患者数	17,608 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	416 人/年
年間分娩数	897 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	138 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	18 人/年
年間呼吸管理患者数	16 人/年

## 発表論文の詳細

なし

## 学会発表

全国学会

なし

## 地方学会

1. 山崎 茂、水島正人、中村明枝、大倉有加、伊東広臨、南雲 淳、永島哲郎：クエン酸投与で改善のみられた先天性ナトリウム下痢症の一例。日本小児科学会北海道地方会第 263 回例会、旭川市、2005.7.3
2. 大倉有加、山崎 茂、内田麻子、伊東広臨、水島正人、南雲 淳、永島哲郎：歩行障害と末梢性顔面神経麻痺をほぼ同時に発症した急性リンパ性白血病（ALL）の 1 例。日本小児科学会北海道地方会第 264 回例会、札幌市、2005.11.27
3. 大倉有加、山崎 茂、内田麻子、伊東広臨、水島正人、南雲 淳、永島哲郎：家族性大脳基底核石灰化症（FBGC）の一家系。日本小児科学会北海道地方会第 265 回例会、札幌市、2006.2.26

## 釧路労災病院

### 所属メンバー

- ・ 仲西正憲 (昭和 56 年卒)
- ・ 鈴木靖人 (平成 7 年卒)
- ・ 渡辺麻衣子 (平成 12 年卒、平成 17 年 5 月から)
- ・ 竹崎俊一郎 (平成 13 年卒、平成 17 年 4 月まで)

### 専門外来

心疾患外来 (×1/月)

慢性疾患外来 (×1/週)

内分泌疾患外来 (×1~2/年)

---

病院全体の医師数	71 人
小児科医師数	3 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	500 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	19 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	3 床

NICU としての認定                      あり、なし

平均小児科外来数	72.8+8.8 人/日 (8.8 は予防接種)
平均時間外外来数	5.2 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,201 人/年
年間のべ入院患者数	7,081 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	506 人/年

年間分娩数	534 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	41 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	2 人/年
年間呼吸管理患者数	6 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

釧路小児科医会 ×4

## 町立中標津病院

### 所属メンバー

- ・ 富沢一浩（昭和 57 年卒）
- ・ 佳久哲宜（平成 7 年卒）

### 専門外来

平成 16 年度データ

病院全体の医師数	20 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	199 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	8 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	2 床

NICU としての認定            あり、なし

平均小児科外来数	80 人/日
平均時間外外来数	40 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	400 人/年
年間のべ入院患者数	2,700 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年

年間分娩数	220 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

  全国学会

なし

  地方学会

なし

## 市立根室病院

### 所属メンバー

- ・小堤罔雄（昭和 49 年卒）

### 専門外来

内分泌外来（田島敏広）

心臓外来（八鍬 聡）

神経発達外来（白石秀明）

---

病院全体の医師数	24 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 1 人)
病院全体の病床数	199 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	23 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	8 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	67.8 人/日
平均時間外外来数	4.4 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	582 人/年
年間のべ入院患者数	2,748 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	555 人/年
年間分娩数	177 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	11 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 楡の会こどもクリニック

### 所属メンバー

- ・石川 丹 (昭和 48 年卒)
- ・末田慶太郎 (平成 11 年卒)

### 専門外来

病院全体の医師数	3 人	
小児科医師数	2 人	(うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	13 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	4 床	
ショートステイベッド	9 床	
NICU病床数	床	
新生児病床数(NICUを除く)	床	
NICU としての認定	あり、	<input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	44 人/日	
平均時間外外来数	0.05 人/日	(小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	75 人/年	
年間のべ入院患者数	768 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	5 人/年	
年間分娩数	0 人/年	
年間低出生体重児(2,500g未満)数	0 人/年	
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年	
年間呼吸管理患者数	0 人/年	

## 発表論文の詳細

1. 石川 丹：早産低出生体重児の精神発達早期療育のポイント. 臨小医 53:3-8, 2005
2. 石川 丹：虐待する親の心、される子の心ー虐待予防ー. 小児臨床 58:903-908, 2005
3. 石川 丹：育てにくいと写る子どもの実像と対応. 臨小医 53: 43-48, 2005
4. 石川 丹、猿橋智博、末田慶太郎：親子精神療法が奏効したイ列訥の3歳児例. 臨小医 53: 107-109, 2005

## 学会発表

## 全国学会

1. 石川 丹：学校における諸問題の解決に向けてー関係機関との連携のあり方ー. 第 47 回日本教育心理学会、シンポジウム、江別市、2005.9.19

## 地方学会

1. 末田慶太郎、石川 丹：不登校中に呼吸苦、多呼吸を認め、過換気症候群が疑われたが、代謝アシドーシスを認めた10才男児の一例. 日本小児科学会北海道地方会第 264 回例会、2005.11.27
2. 末田慶太郎、石川 丹：過換気症候群、心因性食欲不振症、PTSD、不登校を合併した10才男児の心理的改善過程に関する考察. 第 8 回日本小児神経学会北海道地方会、2006.3.11

## 白老町立国保病院

### 所属メンバー

- ・ 武越靖郎（昭和 42 年卒）

### 専門外来

アレルギー外来（×1/2 ヶ月）

病院全体の医師数	6 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 人)
病院全体の病床数	98 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	0 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	0 床
NICU としての認定	あり、 <input type="checkbox"/> なし
平均小児科外来数	10.6 人/日
平均時間外外来数	0.14 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	8 人/年
年間のべ入院患者数	人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	0 人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

## 新日鐵室蘭総合病院

### 所属メンバー

- ・ 古田博文（昭和 61 年卒）

### 専門外来

心臓外来（×2/月）

神経外来（×1/月）

腎臓外来（×1/月）

内分泌外来（×1/3 ヶ月）

平成 16 年度データ

病院全体の医師数	49 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 1 人)

病院全体の病床数	347 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	9 床
NICU病床数	0 床
新生児病床数(NICUを除く)	5 床

NICU としての認定            あり、なし

平均小児科外来数	37.4 人/日
平均時間外外来数	6.4 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	758 人/年
年間のべ入院患者数	3,778 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	141 人/年

年間分娩数	564 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	33 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	2 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし